I-O DATA

PCIバス搭載PC-9821シリーズ＆DOS/V用EthernetＬＡＮアダプタ

# LA2/T-PCI

# 取扱説明書

E-03A

## 【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、株式会社アイ・オー・データ機器 PLANTコールセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国管理法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当します。
したがって、国外に持ち出す場合には、必ず日本国政府の輸出許可申請など必要な手続きをお取りください。
6) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
7) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
8) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
9) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
10) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is only suitable for use in Japan.
We shall have no liability for any damages arising from the use or inability to use this product in other countries. We neither provide any technical support and/or after-service for the use of this product abroad.)

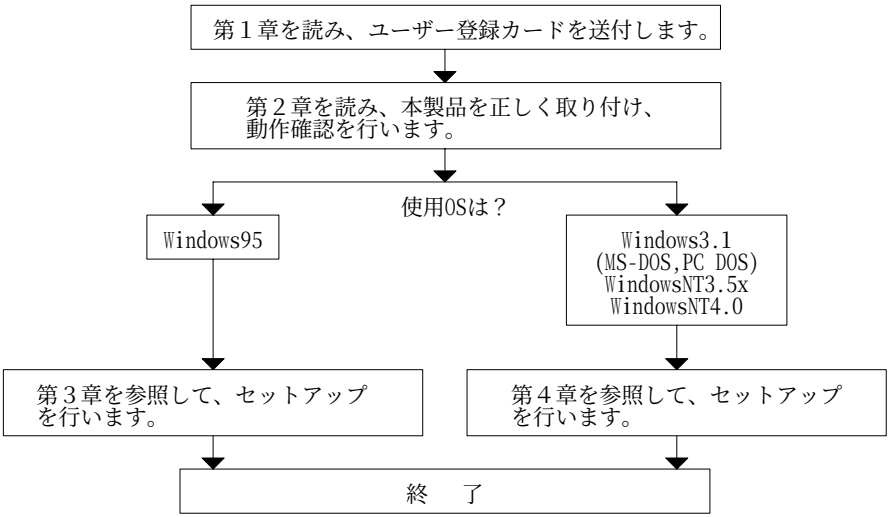

- I-O DATA,PLANTは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft,Windows,WindowsNT,MS,MS-DOSは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
- Ethernetは、米国 Xerox Corporationの登録商標です。
- NetWareは、米国 Novell,Inc.の登録商標です。
- ArtisoftとLANtasticは、米国 Artisoft,Inc.の登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

**このたびは、PCIバス搭載PC-9821シリーズ、DOS/Vマシン用LANアダプタボード**
**LA2/T-PCIをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。**
**ご使用の前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。**

# 本書をご覧になるにあたって

## ・本書の見方

**以下のフローに沿って、必要な箇所をお読みください。**



## ・呼び方

| 呼び方 | 意 味 |
|---|---|
| 「ネットワークOS」または「NOS」 | Network Operating System |
| Windows95 | Microsoft® Windows®95 Operating System |
| Windows3.1 | Microsoft® Windows® Operating System Version3.1 |
| WindowsNT3.5x | Microsoft® WindowsNT® Operating System Version3.5及びVersion3.51 |
| WindowsNT4.0 | Microsoft® WindowsNT® Operating System Version4.0 |
| Windows | Windows95,Windows3.1,WindowsNT3.5x及びWindowsNT4.0の総称 |

## ・ハードウェア構成

本書では以下のような構成を想定して説明しています。構成の相違点を確認しながら読み進めてください。

**《ドライブ構成》**

**PC-9821シリーズの場合**

A：ハードディスク装置

使用するOSがインストール済みで起動可能

B：ハードディスク装置

C：フロッピィディスク装置3.5インチ(1.44MB/1.25MB/720KB)

D：CD-ROMドライブ

**DOS/Vマシンの場合**

A：フロッピィディスク装置3.5インチ(1.44MB/720KB)

C：ハードディスク装置

使用するOSがインストール済みで起動可能

D：CD-ROMドライブ

はじめに ..... i
目次 ..... iii

第1章 ご使用になる前に……1

1.1 特徴 ..... 1
1.2 箱を開けたら ..... 2
1.3 動作環境 ..... 3
1.4 取り扱い及び使用上の注意 ..... 5
1.5 実行用ディスクの作り方 ..... 6

第2章 取り付け方法……7

2.1 各部の名称 ..... 7
2.2 LEDインジケータ ..... 8
2.3 取り付け ..... 9
2.4 動作確認 ..... 12

第3章 日本語Windows95で使用するには ……15

3.1 インストール方法 ..... 15
3.1.1 インストール ..... 16
3.1.2 インストール終了後の確認及び設定 ..... 19
3.2 ピア・ツー・ピア接続の設定 ..... 23
3.2.1 ファイルとプリンタの共有 ..... 23
3.2.2 メールの設定 ..... 35
3.3 各種ネットワークシステムへの接続 ..... 52
3.3.1 NetWareサーバへの接続 ..... 53
3.3.2 WindowsNTサーバへの接続 ..... 58
3.3.3 LANtastic for Windows95へのセットアップ ..... 60

**第4章 他のOSで使用するには……61**

4.1 MS-DOS及び日本語Windows3.1へのセットアップ……61
4.1.1 NetWare 3.12J/4.1J/4.11Jへのｾｯﾄｱｯﾌﾟ……61
● サーバの設定……61
● クライアントの設定……65
4.1.2 Microsoft LAN Manager V2.1xへのセットアップ……69
4.1.3 Personal NetWare J1.0へのセットアップ……70
4.1.4 LANtastic 6.0へのセットアップ……70
4.2 日本語WindowsNT3.5xへのセットアップ……71
4.3 日本語WindowsNT4.0へのセットアップ……74

**付録1 困った時には……80**

● 自己診断中のトラブル……80
● Windows95上でのトラブル……82

**付録2 ネットワークの仕様及び接続方法……86**

付2.1 10BASE-T……86
付2.2 10BASE2……88

**付録3 用語解説……90**

**付録4 仕様……98**

付4.1 パソコン環境……98
付4.2 ハードウェア仕様……102

PLANTコールセンターへのお問い合わせ……103
サポートソフトのバージョンアップ……104
修理について……105

# 第1章 ご使用になる前に

この章では、LA2/T-PCIをご使用になる上で必要となる事項を説明しますので、最初に必ずお読みください。

## 1.1 特徴

●Ethernet IEEE 802.3に準拠しています。

●PCI(Peripheral Component Interconnect) Ver.2.0以降のバスに対応しています。

●バスマスタ機能と32ビットデータ転送で高速なネットワーク環境を提供します。

●ネットワーク状態の監視用LEDインジケータが装備されています。

●メディアタイプ（RJ-45[10BASE-T]とBNC[10BASE2]）を自動的に判別します。

●Novell NetWare, Windows95, WindowsNT3.5x/4.0に対応しています。

# 1.2 箱を開けたら

## • 内容のご確認

| 内容物 | 個数 | 備考 |
|---|---|---|
| LANアダプタボード | 1枚 | LA2/T-PCI |
| サポートソフトウェアディスク<br>3.5インチ2HD | 3枚 | PC-9821シリーズ用 (1.44MB)<br>DOS/Vマシン用 (1.44MB)<br>NetWare User Tools (1.44MB) |
| 取扱説明書 | 1冊 | 本書 |
| MEMORY SERVER II | 2枚 | 3.5インチ2HD (1.44MB,1.25MB) |
| MEMORY SERVER II 取扱説明書 | 2冊 | |
| Verシール | 3枚 | |
| ハードウェア保証書 | 1枚 | |
| ハードウェアシリアルNo.シール | 1枚 | |
| ユーザー登録カード | 1枚 | 本書巻末 |
| BNC T型コネクタ | 1個 | |
| 安全で快適にお使いいただくために | 1個 | |

万が一、不足がございましたら弊社PLANTコールセンターまでお知らせください。

## • ユーザー登録カードのご返送

1). 添付のVerシールをユーザー登録カード、サポートソフトウェアディスクの「Verシール」と書かれている欄、本書の巻末に貼ってください。

2). ユーザー登録カードに添付のハードウェアシリアルNo.シールを貼り、必要な事項をご記入のうえ、弊社まで必ずご返送ください。

注 意

1)弊社 PLANTコールセンターでのユーザーサポートは、ユーザー登録カードをご返送くださった方のみが対象となります。お買い上げいただいた製品ごとに必ずご返送ください。

2)必要事項のご記入もれや、必要なシールの貼り忘れがあった場合は、ユーザー登録できませんので必ずご確認ください。

# 1.3 動作環境

**ご使用の機種や環境を再度ご確認ください。**

## • パソコン本体の機種

**PCI(Peripheral Component Interconnect) Ver.2.0以降のバスを搭載した**
**PC-9821シリーズまたはDOS/Vマシン※**

**※　弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認を行っています。**

## • ＯＳ環境

**日本語Windows95**
**日本語WindowsNT3.5x/4.0**
**日本語Windows3.1**
**MS-DOS(PC DOS)**
**PC-9821シリーズの場合**
**MS-DOS Ver.5.0A-H以上**
**DOS/Vマシンの場合**
**MS-DOS (PC DOS) Ver.5.0以上 (DOS/Vのみ)**

## • 対応ＮＯＳ環境

**クライアント･サーバ**

| |
|---|
| 日本語Windows95 |
| 日本語WindowsNT3.5x/4.0 |
| NetWare 3.12J/4.1J/4.11J |
| Microsoft LAN Manager V2.1xJ |

**ピア･ツー･ピア**

| |
|---|
| 日本語Windows95 |
| 日本語WindowsNT3.5x/4.0 |
| Personal NetWare J1.0 |
| LANtastic 6.0 |
| LANtastic for Windows95 |

**ネットワークプロトコル**

| |
|---|
| packet driver for FTP TCP/IP |
| ODI4.0/NDIS2.x,3.x |

注 意

**【Windows3.1,MS-DOS(PC DOS)で使用時の注意】**
**メモリマネージャを利用する場合、32Bit I/Oアクセス可能なバージョンが必要です。**

**PC-9821シリーズの場合**

| | |
|---|---|
| EMM386.EXE | (NEC製Windows3.1、Microsoft製Windows3.1、NEC製MS-DOS Ver.5.0以降に添付) |
| VMM386.EXE | Ver.3.10以降 (弊社製WinKit-H に添付) |

**DOS/Vマシンの場合**

| | |
|---|---|
| EMM386.EXE | Ver.4.49以降 (NIFTY-ServeのMicrosoft Stationなどで入手可能) |
| VMM386.EXE | Ver.3.51以降 (弊社製WinKit-H に添付) |
| QEMM386.SYS | Ver.7.0以降 |
| 386MAX.SYS | Ver.6.03以降 |

# 1.4 取り扱い及び使用上の注意

・ 本製品の取り付けや取り外しは、必ずパソコン本体及び周辺機器の電源を切り、コンセントを外してから行ってください。故障の原因になることがあります。

・ 本製品は精密機器です。落としたり衝撃を加えないよう、丁寧に取り扱ってください。

・ 本製品に対し、以下のことを行わないでください。火災・感電・動作不良の原因になります。
・分解や改造などをしないでください。
・濡れた手などで本製品を取り扱わないでください。

・ 保証について
◎保証期間
・保証期間は、お買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有料修理となります。
また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。
・弊社が販売中止を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。
◎保証範囲
次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。
・本製品の使用によって生じた、データの消失及び破損。
・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。
・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

# 1.5 実行用ディスクの作り方

本製品に添付されているサポートソフトウェアディスクは必ずバックアップを取り、バックアップディスクの方を実行用ディスクとしてご使用ください。
ここでは、実行用ディスクの作り方を説明します。（以下は、フロッピィディスクドライブが Cドライブの場合）

**1** 1.44MBでフォーマット済みの空きフロッピィディスク(3.5インチ2HD)を用意します。

**2** サポートソフトウェアディスクを書き込み禁止にします。

**3** **Windows95の場合**は、『ﾏｲ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』の「3.5ｲﾝﾁ FD(C:)」を右クリックし『ﾃﾞｨｽｸのｺﾋﾟｰ』を選択します。

Windows95の例)

**Windows3.1 (MS-DOS,PC DOS) の場合**は、MS-DOSのコマンド入力状態で DISKCOPY コマンドを実行します。

MS-DOSの例)

```
C:\>diskcopy a: a:・
```

（下線部入力）

**4** サポートソフトウェアディスクと空きフロッピィディスクをメッセージにしたがって入れ替えながら、バックアップを取ります。

注 意

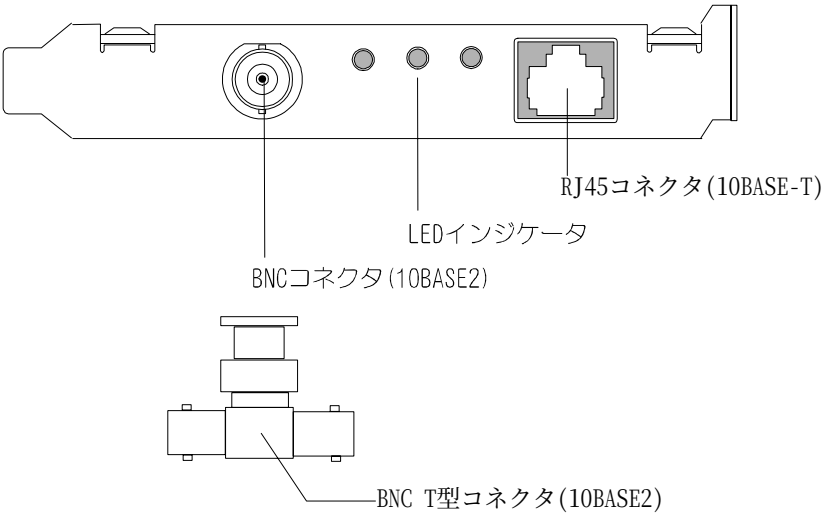
サポートソフトウェアディスクを破損した場合の修理は有償です。
必ずバックアップを取り、サポートソフトウェアディスクは大切に保管してください。

# 第2章 取り付け方法

**LA2/T-PCIは、PCIバス仕様の拡張スロットに装着することができます。**
**この章では、パソコンにLA2/T-PCIをセットアップする方法を説明します。**

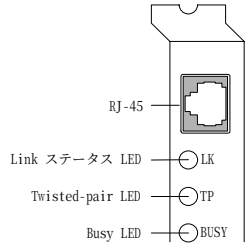
## 2.1 各部の名称

**LA2/T-PCI**



# 2.2 LEDインジケータ

## LEDインジケータ




・Link ステータスLEDインジケータ

Link(LK)ステータスLEDインジケータは、パワーインジケータとネットワークリンクステータスインジケータとして機能します。

このLEDは、LA2/T-PCIがパソコンから電力の供給を受け、ハードウェアとソフトウェアが適切にセットアップされている時、常に点灯しています(緑色)。そうでなければネットワーク回線接続をチェックしてください。

・Twisted-pair LEDインジケータ

ツイストペアのネットワーク回線が適切に接続されているかを示します。

緑色が点灯していればRJ-45（10BASE-T）に接続されているツイストペアのネットワーク回線が正常に動作していることを表しています。

注意

このLEDは、BNC接続のステータスには反応しません。ネット回線の接続タイプをチェックする場合は、lasetup.exeの「ＬＡＮアダプタの自己診断及び設定」を使用してください。（［2.4 動作確認］(P12)参照）

・Busy LEDインジケータ

このLEDインジケータは、送受信用データを示します。

緑色の点滅(点灯)状態は、ネットワークの利用状況を示しています。

# 2.3 取り付け

**PC-9821シリーズで、Windows95をご使用の場合は、ボードを取り付ける前にWindows95のバージョンの確認をおこなってください。DOS/Vマシンや他のOSをご使用の場合はバージョンの確認は必要ありません。《Windows95バージョンの確認方法》を読み飛ばしてください。**

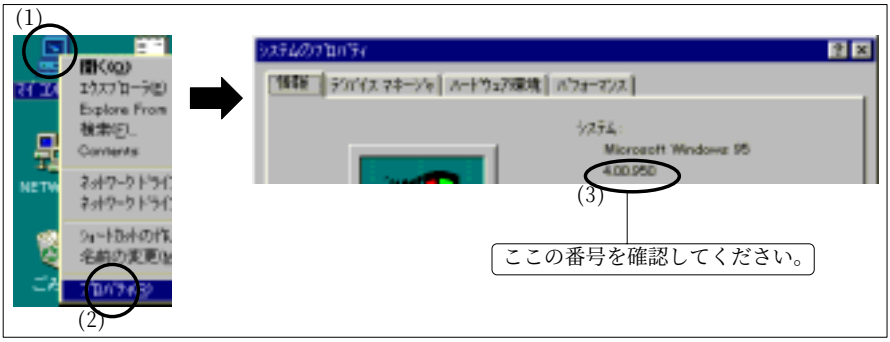
注 意

**Windows95をご使用の場合、バージョンによりインストール方法が異なりますので、必ずバージョンを確認してからボードの取り付けを行ってください。**

Windows95を起動後、以下の方法でWindows95のバージョンを確認してください。
確認後、メモなどに書きとめておいてください。
（Windows95のバージョンには、「4.00.950」,「4.00.950a」,「4.00.950 B」があります。）

## 《Windows95バージョンの確認方法》

「ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」(1)にマウスカーソルを合わせて右クリックし、現れたメニューから「ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」(2)を選択します。「ｼｽﾃﾑのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」に表示される番号(3)を確認してください。



## 《取り付け》

注 意

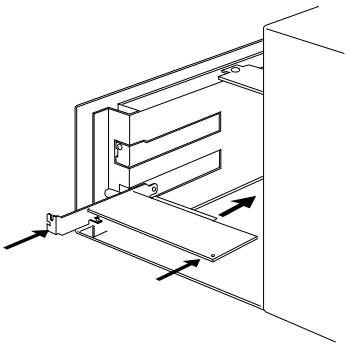
**ボードの取り付け、取り外しの際は、必ずパソコン本体及び周辺機器の電源をOFFにして、電源ケーブルをコンセントから抜いた状態で行ってください。**

**1** パソコンの電源スイッチを切り、周辺機器に接続されているケーブルを全て取り外します。

**2** パソコンのカバーを取り外します。取り外し方については、パソコンの取扱説明書を参照して下さい。

**3** 空いているPCI拡張スロットのスロットカバーを取り外してください。

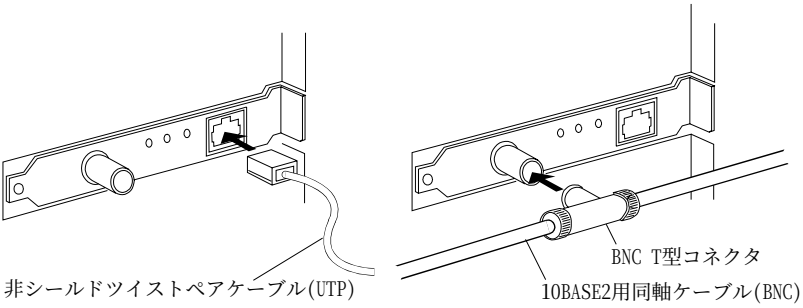
**4** PCI拡張スロットにLA2/T-PCIを取り付けます。
LA2/T-PCIがPCI拡張スロットに適切に装着されることを確認しながら押し込みます。（ご使用のパソコンによっては、本製品の部品面を下に向けて差し込む場合や本製品を垂直に差し込む場合などがあります。詳しくはパソコンの取扱説明書をご参照ください。）



**5** PCI拡張スロットにLA2/T-PCIが確実に固定されるように、スロットカバー用のネジを取り付けます。

**6** 手順**1**や**2**で取り外された、パソコンのカバーと全ての周辺機器やケーブルを元に戻します。

**7** **LA2/T-PCIをネットワークに接続します。（10BASE-T用非シールドツイストペアケーブルまたは10BASE2用同軸ケーブルのどちらか一方を接続してください。）**



# 2.4 動作確認

LA2/T-PCIの動作確認を行います。
動作確認は、MS-DOS上で動作する lasetup.exe で行います。lasetup.exeはLANアダプタボードの自己診断による動作確認を行います。

特に注意

動作確認を行う場合は、config.sysやautoexec.batに各種ネットワークドライバ（NetWare,MS LAN Manager,LANtastic等）を組み込まない状態でテストを行ってください。
組み込まれたまま動作確認を行うと、パソコンがハングアップしたりして正常に動作しなくなる場合があります。

診断が正常なことを確認し、設定を終了後、NetWareクライアントにLA2/T-PCIの設定を反映させる事ができます。画面の指示に従って作業を進めてください。ただし、設定の反映はNetWareクライアントをインストールした後に行ってください。インストールしていない場合は、[終了]を選んでください。

1 周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れ、ハードディスクからMS-DOSを起動します。（以下は、PC-9821シリーズ及びDOS/VマシンでWindows95からDOSプロンプトを起動する場合です。）

● **PC-9821シリーズの場合**

Windows95の起動時（Windows 95 を起動しています...の表示中）に[F8]キーを押してください。「Microsoft Windows 95 起動メニュー」が表示されたら[SHIFT]+[F5]キーを押して、DOSプロンプトを起動してください。

● **DOS/Vマシンの場合**

Windows95の起動時（Starting Windows95...の表示中）に[F8]キーを押し、「Microsoft Windows95 Startup Menu」が表示されたら「Command prompt only」を選択してDOSプロンプトを起動してください。

参考

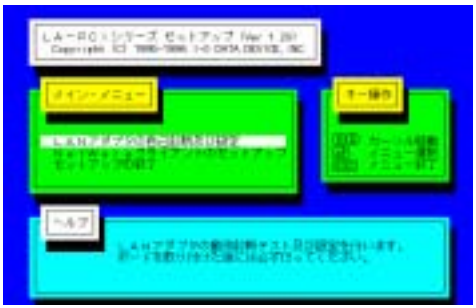
DOS/Vマシンでメモリマネージャやその他のデバイスドライバと競合する場合は、「Command prompt only」を選択する前に[SHIFT]+[F8]キーでStep-by-step confirmationモードを「Y」に切り替えてから起動してください。途中、競合するドライバを組み込まないように選択しながら、DOSプロンプトを起動してください。（日本語環境は必ず組み込んでください。）

**2** **フロッピィディスクドライブに添付の「LA-PCIシリーズサポートソフト」ディスクをセットし、以下のようにセットアッププログラムを起動します。**

**書式　［サポートソフトウェアディスクのドライブ名］:\lasetup**

| | PC-9821シリーズの場合 | DOS/Vパソコンの場合 | |
|---|---|---|---|
| 例） | A:\>c:\lasetup・ | C:\>a:\lasetup・ | （下線部入力） |

**セットアップ画面が表示されたら「ＬＡＮアダプタの自己診断及び設定」を選択してください。**



**3** **パソコンにセットされているLA2/T-PCIのﾉｰﾄﾞｱﾄﾞﾚｽ,IRQ,I/Oポート等が表示されます。動作確認を行うLA2/T-PCIを選択してください。通常はそのまま・キーを押してください。**

**4** **以下の項目について、LA2/T-PCIのチェックが行われます。**

**装置構成テスト**
**I/Oテスト**
**IDテスト**
**内部ループバックテスト**
**外部ループバックテスト**
**割り込みテスト**

**上記テストで異常が無いことを確認してください。カウンタが5000を示すまでの間、「異常」がカウントされないことを確認すれば良いでしょう。さらに、[F2]キーを押すと、ネットワーク機能テストが始まります。終了するには[ESC]キーを押してください。**

**終了するには**

**[ESC]キーを2回押し、・キーを押すと、LASETUP.EXEの初期画面(2を参照)に戻りますので、「セットアップの終了」にカーソルを合わせ、・キーを押してください。**

注 意

**1)トラブルが持続するならば、LAN間接続（ケーブル,ハブなど）が確実に接続されていることを確認し、トラブルを確定するためにパソコンを再起動して再び「ＬＡＮアダプタの自己診断及び設定」を動かしてください。**
**2)すでに存在しているネットワーク環境に接続してテストを行う場合は、事前にネットワークシステム管理者にご相談ください。**

# 第3章 日本語Windows95で使用するには

Windows95上でLA2/T-PCIを使用するには、ドライバのインストール及びネットワークの設定がが必要となります。ここでは、Windows95へのLA2/T-PCIのドライバのインストール方法及び各種ネットワークの設定について説明します。インストールが正しく終了すると、LA2/T-PCIが使用できるようになります。

## 3.1 インストール方法

注 意

1)LA2/T-PCIのRJ-45コネクタ(100BASE-TXまたは10BASE-T)に、ネットワーク接続されたケーブルがしっかりと差し込まれていることを確認してください。
2) 【2.4 動作確認】(P12)を参照して正常に動作することを確認してください。

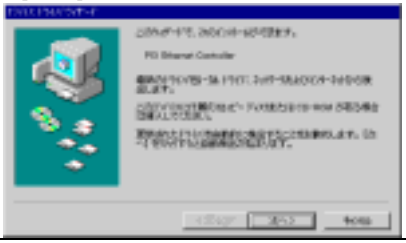
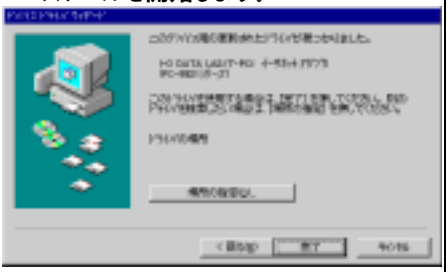
**PC-9821シリーズをお使いの場合**は、
Windows95のバージョン(「4.00.950/4.00.950a」,「4.00.950 B」)によってインストール手順(画面)が異なります。先ほど【2.3 取り付け】(P9)で確認したバージョンの該当欄を参照してインストールを行ってください。

Windows95のバージョンが4.00.950または4.00.950aの場合
次ページ以降の《Windows95 4.00.950/4.00.950aの場合》をお読みください。
Windows95のバージョンが4.00.950 Bの場合
次ページ以降の《Windows95 4.00.950 Bの場合》をお読みください。

注 意

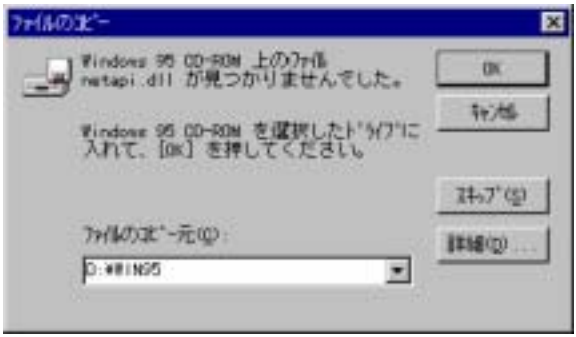
**DOS/Vマシンをお使いの場合**は、Windows95に「DECchip 21040 Based Adapter」として自動認識されドライバが組み込まれます。ドライバのセットアップは特に必要ありませんが、一旦Windows95を再起動させた後で、【3.1.2 インストール終了後の確認及び設定】(P19)へ進んでください。

## 3.1.1 インストール

| Windows95 4.00.950/4.00.950aの場合 | Windows95 4.00.950 Bの場合 |
|---|---|
| 1 電源を入れ、Windows95を起動します。 | |
| 2 Windows95がLA2/T-PCIを自動的に検出し、『新しいﾊｰﾄﾞｳｪｱ』画面が表示されます。「ﾊｰﾄﾞｳｪｱの製造元が提供するﾄﾞﾗｲﾊﾞ」を選択し、[OK]ボタンをクリックしてください。（もし自動検出されなかった場合は、【付録1　困った時には】の83ページをご覧ください。） | 2 Windows95がLA2/T-PCIを自動的に検出し、『ﾃﾞﾊﾞｲｽﾄﾞﾗｲﾊﾞｳｨｻﾞｰﾄﾞ』画面が表示されます。（もし自動検出されなかった場合は、【付録1　困った時には】の83ページをご覧ください。）<br>「LA-PCIシリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し、[次へ]ボタンをクリックします。  |
| 3 「LA-PCIシリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに入れ、「配布ﾌｧｲﾙのｺﾋﾟｰ元」に C:\WIN95（フロッピィディスクドライブが C ドライブの場合）と入力し[OK]ボタンをクリックしてください。 | 3 「このデバイス用の更新されたドライバが見つかりました。I-O DATA LA2/T-PCI ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」のメッセージがでたら、[完了]ボタンをクリックします。インストールを開始します。  |

**4** **以下の「ユーザー情報」の設定画面が表示された場合は、「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名」や「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ名」を入力し、[閉じる]ボタンをクリックします。**

**5** **Windows95のシステムディスクが要求されます。システムディスクを入れて「ﾌｧｲﾙのｺﾋﾟｰ元」に D:\WIN95 と入力してください。（システムディスクがWindows95のCD-ROMで、CD-ROMドライブがD:ドライブの場合。）**
**［OK］ボタンをクリックしてください。必要なファイルがコピーされます。（FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。）**



注 意

**5** のCD-ROM等からのファイルのコピー途中で、「･･･のﾌｧｲﾙ LAPX98.DO_が見つかりませんでした。」とエラー表示された場合は、「LA-PCIシリーズサポートソフト」ディスクがフロッピィディスクドライブに挿入されていることを確認して、以下の例の様にパス指定を行い[OK]ボタンをクリックしてください。

例)　C:\WIN95 (下線部入力:フロッピィディスクドライブがCドライブの場合)

**6** 『ｼｽﾃﾑ設定の変更』画面で、ドライブからフロッピィディスクを抜き、[はい]をクリックしてWindows95を再起動してください。
『ｼｽﾃﾑ設定の変更』が表示されずにWindows95が起動した場合は、手動で再起動してください。

以上でインストールは終了です。Windows95を再起動後、インストール後の確認を行ってください。([3.1.2 インストール終了後の確認及び設定] (P19)参照)

## 3.1.2 インストール終了後の確認及び設定

ここではLA2/T-PCIが、Windows95で正常に認識されているかどうかの確認方法を説明します。
インストール終了（再起動）後、必ず以下の事を確認してください。

**≪確認事項　Ⅰ≫**

パソコンを再起動すると起動途中で以下のA画面が表示されますので、ユーザー名とパスワードを入力して[OK]ボタンをクリックしてください。
起動後、デスクトップ上に、「ﾈｯﾄﾜｰｸｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンが追加されたことを確認してください。（以下のB画面）

A　「ﾈｯﾄﾜｰｸﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの入力」画面

B　「ﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟ」上の
「ﾈｯﾄﾜｰｸｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコン

参考

Windows95では、パスワード管理も一元化されています。ユーザーID、パスワードを利用するネットワークで同一にしておけば、1つのネットワークにログインすれば、他のネットワークにユーザIDとパスワードの入力なしでログインできます。

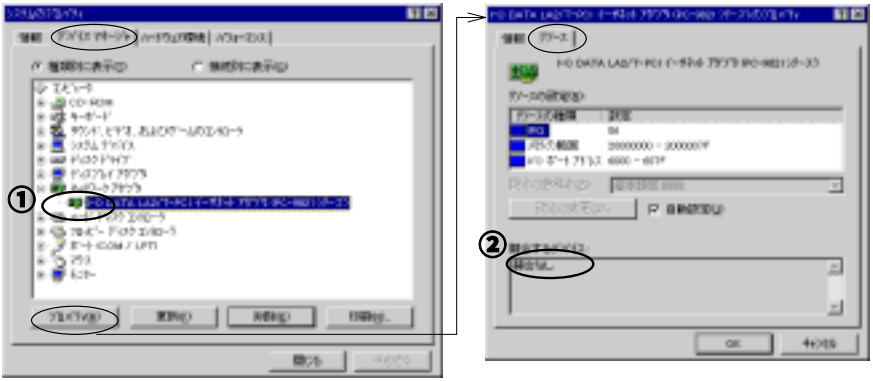
**≪確認事項 II≫**

**『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』をクリックし、『ｼｽﾃﾑ』アイコンをダブルクリックしてください。**

**以下は、PC-9821シリーズを例にしています。**

**① 『ｼｽﾃﾑのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の「ﾃﾞﾊﾞｲｽ ﾏﾈｰｼﾞｬ」で、「I-O DATA LA2/T-PCI ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ※」の頭に、！マークが付いていないことを確認してください。**

**② 「I-O DATA LA2/T-PCI ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ※」を選択した状態で、[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]をクリックし、『I-O DATA LA2/T-PCI ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ※のﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の「ﾘｿｰｽ」で、デバイスが競合していないことを確認してください。**




**※ DOS/Vマシンをお使いの場合は、**
**「PCI Ethernet DECchip 21040 Based Adapter」**
**と表示されます。**

参 照

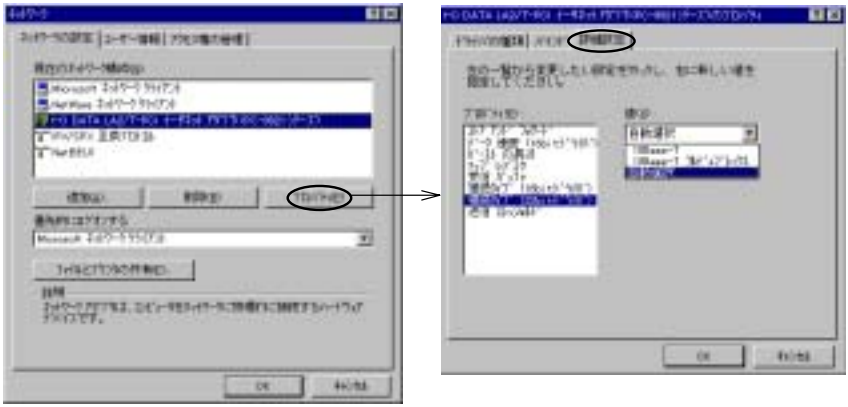
**！マークがついている場合は、[付録1 困った時には]の82ページを参照してください。**

**≪設定≫**

**『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』の「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックします。『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面になりますので、必要事項を設定してください。この設定が正しくないとWindows95が<u>ハングアップ</u>したり<u>正常な動作を行わない</u>可能性があります。**

1) **通常各設定は、初期状態の設定で使用してください。**
2) **PC-9821シリーズの場合は、『I-O DATA LA2/T-PCI ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ(PC-9821ｼﾘｰｽﾞ)のﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』→「詳細設定」→「接続ﾀｲﾌﾟ(32ﾋﾞｯﾄﾄﾞﾗｲﾊﾞ)」の設定は〈接続タイプ(Connection Type)〉(次ページ)を参照して行ってください。**
3) **DOS/Vマシンの場合は、『PCI Ethernet DECchip 21040 Based Adapterのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』→「ﾄﾞﾗｲﾊﾞの種類」で「ｴﾝﾊﾝｽﾄﾞ ﾓｰﾄﾞ(32ﾋﾞｯﾄまたは16ﾋﾞｯﾄ) NDIS ﾄﾞﾗｲﾊﾞ」が選択されていることを確認し、「詳細設定」→「Connection Type-32 bit」の設定は〈接続タイプ(Connection Type)〉(次ページ)を参照して行ってください。**

**《PC-9821シリーズの場合の表示例》**



《DOS/Vマシンの場合の表示例》

**<接続タイプ（Connection Type）>**

**●自動選択（AutoSense）：**

**接続ポートを確認して、最初に使用できるポートを接続タイプとして選択します。この接続の検知はドライバを初期化するときに行われます。**

注 意

**システムを起動する時にはケーブルを、ネットワークへ<u>必ず接続しておかなければなりません</u>。接続されていないときは、正常に機能せず、Windows95がハングアップするなどの現象が発生します。**

**●10BASE-T（10Mbps）：**

**10BASE-T接続にします。**

**●10BASE-T ﾌﾙﾃﾞｭﾌﾟﾚｯｸｽ（10Mbps Full_Duplex）：**

**10BASE-Tフルデュプレクスモード接続にします。（RJコネクタのツイストペアケーブル）**

# 3.2 ピア・ツー・ピア接続の設定

## 3.2.1 ファイルとプリンタの共有

Windows95を利用すれば、Windows95同士のワークグループ内のピア･ツー･ピア接続の設定を簡単に行えます。ピア･ツー･ピア接続を行えば、ファイルやプリンタの共有(ファイル(フォルダ)やプリンタを他のパソコンからアクセスできる)ができます。

＜ファイルの共有＞

ワークグループ内のデータのやりとりがマウス操作（マウスのドラッグ　アンド　ドロップ）で簡単に行えます。データのやり取りにフロッピィディスクなどは必要なくなります。

＜プリンタの共有＞

自分のパソコンにプリンタを接続していなくても、ワークグループ内のプリンタを使用できます。

ピア･ツー･ピア接続の設定を行うには、ワークグループ内の各パソコンで

1.『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面での「ﾕｰｻﾞｰ情報」の設定
   - ユーザー情報の設定（P25参照）

2.「共有」の設定
   - 共有の指定（P27参照）
   - ファイルの共有設定（P28参照）
   - プリンタの共有設定（P30参照）

を行う必要があります。

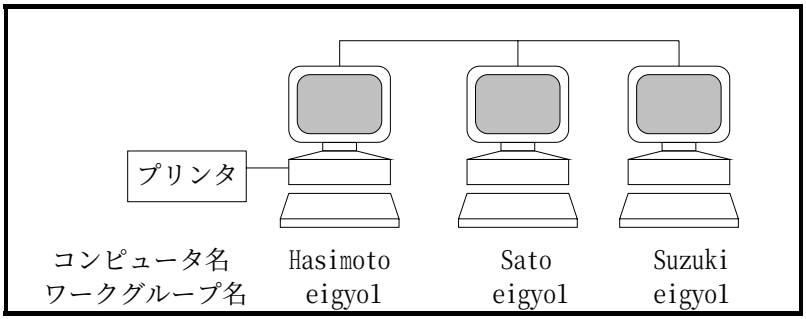
ここでは、営業1課のワークグループ（ワークグループ名：eigyou1）での設定を例として説明します。

＜設定例＞

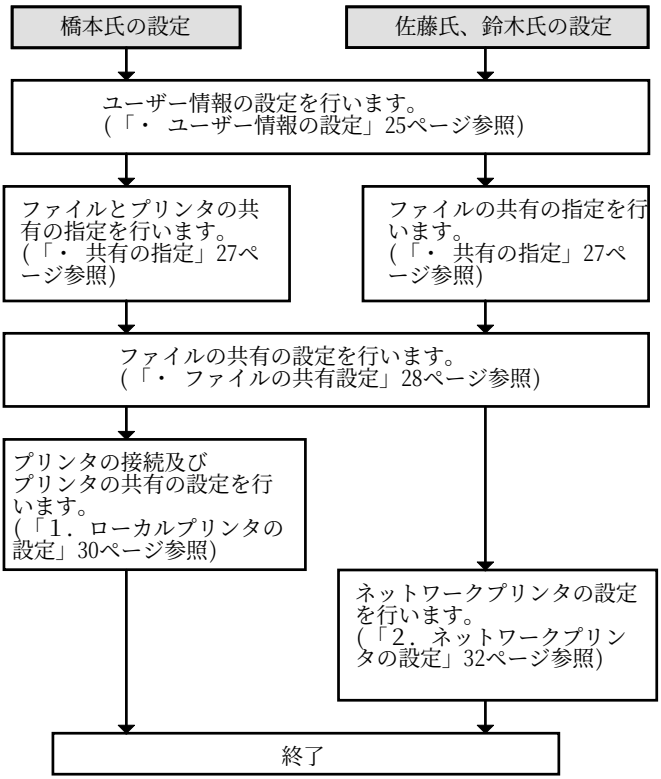
| No | 所属 | 名前 | 使用OS | ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名 | ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ名 | 共有の設定 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 営業1課 | 橋本 | Windows95 | Hasimoto | eigyou1 | ﾌｧｲﾙ及びﾌﾟﾘﾝﾀ |
| 2 | 営業1課 | 佐藤 | Windows95 | Sato | eigyou1 | ﾌｧｲﾙ |
| 3 | 営業1課 | 鈴木 | Windows95 | Suzuki | eigyou1 | ﾌｧｲﾙ |

※「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名」及び「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ名」は、25ページの［・　ユーザー情報の設定］時に必要となります。

**＜構成＞**


プリンタ
コンピュータ名
ワークグループ名
Hasimoto
eigyo1
Sato
eigyo1
Suzuki
eigyo1

**＜作業手順＞**

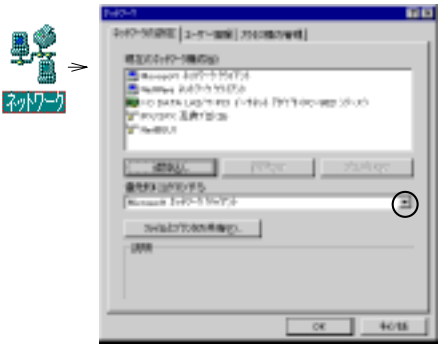

橋本氏の設定
佐藤氏、鈴木氏の設定
ユーザー情報の設定を行います。
(「・ ユーザー情報の設定」25ページ参照)
ファイルとプリンタの共有の指定を行います。
(「・ 共有の指定」27ページ参照)
ファイルの共有の指定を行います。
(「・ 共有の指定」27ページ参照)
ファイルの共有の設定を行います。
(「・ ファイルの共有設定」28ページ参照)
プリンタの接続及びプリンタの共有の設定を行います。
(「1．ローカルプリンタの設定」30ページ参照)
ネットワークプリンタの設定を行います。
(「2．ネットワークプリンタの設定」32ページ参照)
終了

## • ユーザー情報の設定

**ワークグループを形成するすべてのパソコンでユーザー情報を設定します、**

**1** **『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』を選択し、「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックします。『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面が表示されます。**
**「優先的にﾛｸﾞｲﾝする」は、「Microsoft ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄ」を設定してください。**

《PC-9821シリーズの場合の表示例》




[▼]ボタンで「Microsoft ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄ」を設定

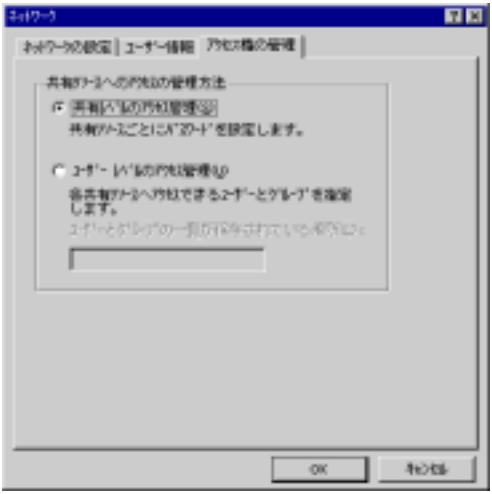
**2** **『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の「ﾕｰｻﾞｰ情報」タブをクリックします。**
**＜設定例(P23)＞を参照して設定するパソコンすべてに「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名」,「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ名」,「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの説明」をそれぞれ入力します。各入力後、[OK]ボタンをクリックします。**

① コンピュータ名を入力します。
コンピュータ名は、ピア・ツー・ピア接続の設定終了後、デスクトップ上の「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンを開いた時に見える名前です。
＜設定例＞での「コンピュータ名」を入力します。

② ワークグループ名を入力します。
同一ワークグループでは、同一にする必要があります。
＜設定例＞での「ワークグループ名」を入力します。

③ コンピュータの説明を入力します。
特に入力しなくても問題ありません。

**3** **アクセス権の設定を行います。**
**『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の「ｱｸｾｽ権の管理」タブをクリックします。**
**Windows95のピア･ツー･ピア接続のみを行う場合は、「共有ﾚﾍﾞﾙのｱｸｾｽ管理」を選択してください。**



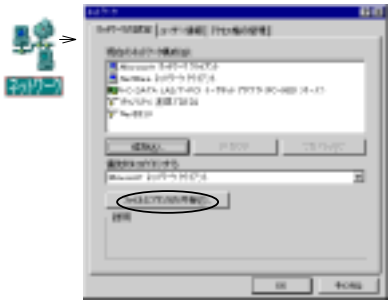

**設定終了後、次ページの「・ 共有の指定」を行ってください。**

## • 共有の指定

**ユーザー情報を設定後、次に、ファイル(フォルダ)やプリンタの共有を行うワークグループ内のすべてのパソコンで以下の共有の指定を行います。**

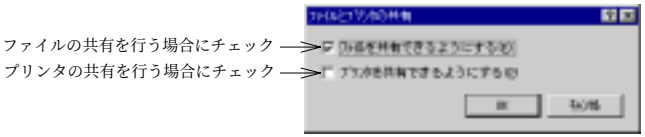
**1** **『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の[ﾌｧｲﾙとﾌﾟﾘﾝﾀの共有]ボタンをクリックします。**

《PC-9821シリーズの場合の表示例》



[ﾌｧｲﾙとﾌﾟﾘﾝﾀの共有]ボタンをクリックする

**2** **共有を行うデバイス（ファイル、プリンタ）のチェックボックスのチェックを行います。チェック後、[OK]ボタンをクリックします。**
**（ファイルの共有のチェックは、ファイルの共有を行うすべてのパソコンで行います。プリンタの共有のチェックは、プリンタを接続しているパソコンのみ設定(チェック)します。）**




注 意

**Windows95のCD-ROMを要求された場合、CD-ROMを準備して**
**d:\win95　（CD-ROMドライブがDドライブの場合）**
**と入力し、画面の指示に従ってください。（FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。）**

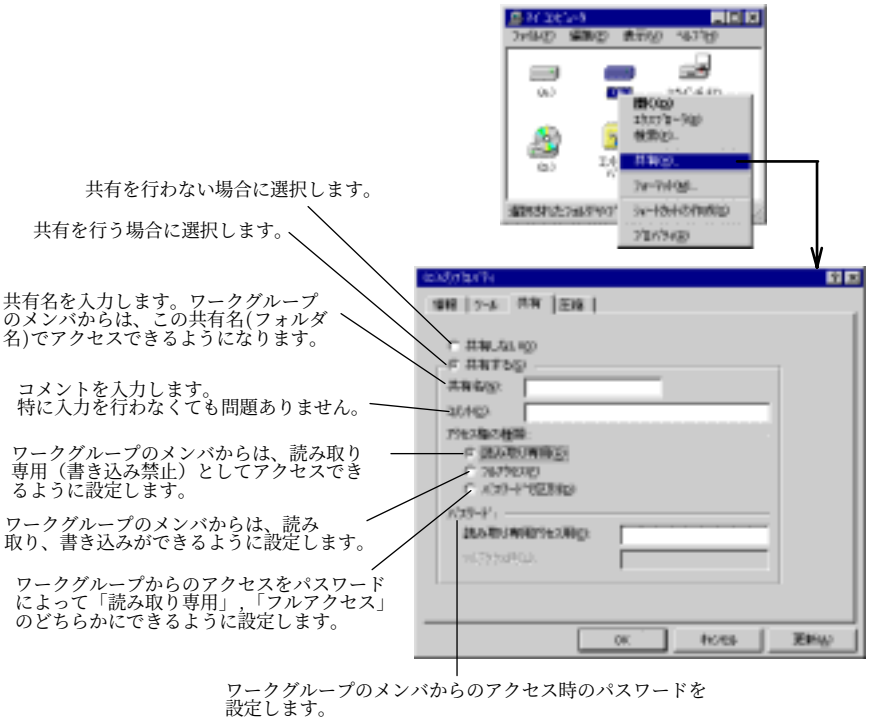
**3** **『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の[OK]ボタンをクリックします。クリック後、一旦Windows95を再起動します。**

**この後、ファイルの共有を行う場合は、次ページの「・ ファイルの共有設定」を参照してください。プリンタの共有を行う場合は、「・ プリンタの共有設定」(P30)を参照してください。**

## • ファイルの共有設定

**ファイルの共有を行えば、ワークグループ内の他のパソコンから自分のパソコンのファイルやフォルダにアクセスできるようになります。**
**ここでは、ファイルの共有の設定について説明します。**

**1** **『ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』での共有を行いたいデバイスやフォルダを右クリックします。**
**メニュー内の「共有」をクリックするとデバイスのプロパティでの共有設定の画面が表示されます。**
**共有設定の画面では「共有する」を選択します。**
**「共有名」、「ｱｸｾｽ権の種類」、「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」の設定を行います。**
**設定後、[OK]ボタンをクリックします。**



**2** **すべてのパソコンでの設定終了後、デスクトップ上の「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンをダブルクリックし、設定したワークグループのコンピュータ名の表示を確認してください。**

**ワークグループの各フォルダをダブルクリックすることでワークグループ内のファイルにアクセスできるようになります。**

**以上で、ファイルの共有の設定は終了です。**

## • プリンタの共有設定

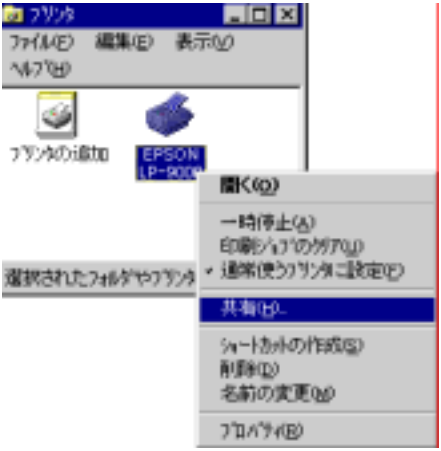
プリンタの共有の設定を行えば、ワークグループ内のプリンタを使用することができます。
ここでは、プリンタの共有の設定について説明します。
ただし、プリンタが接続されているパソコンと接続されていないパソコンでは、設定の手順が異なります。
まず、プリンタが接続されているパソコンで共有設定を行った後（以下の【1.ローカルプリンタの設定】参照）、他のパソコンでネットワークプリンタの設定（【2.ネットワークプリンタの設定】(P32)参照）を行います。

### 1．ローカルプリンタの設定
### （プリンタが接続されているパソコンの設定）

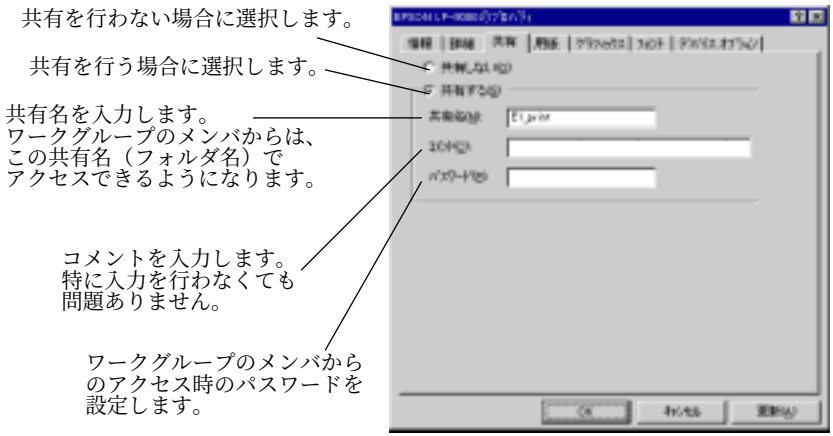
ここでは、プリンタが接続されているパソコン（＜設定例＞(P23)での橋本氏のパソコン）でのプリンタの共有設定を行います。

**1** プリンタの接続及びWindows95でのプリンタの設定を行ってください。
（接続及び設定に関しては、プリンタに付属のマニュアル及びWindows95のマニュアル及びヘルプを参照してください。）

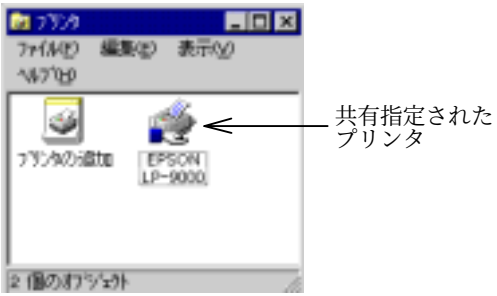
**2** 設定後、プリンタの共有の設定を行います。
『ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』画面の「ﾌﾟﾘﾝﾀ」アイコンをダブルクリックします。
設定したプリンタが表示されています。設定したプリンタを右クリックします。メニュー内の「共有」をクリックするとプリンタのプロパティの画面が表示されます。



**3** **「共有する」を選択します。**
**「共有名」、「ｺﾒﾝﾄ」、「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」の設定を行います。設定後、[OK]ボタンをクリックします。**




**以上で設定終了です。「ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」の「ﾌﾟﾘﾝﾀ」アイコンをダブルクリックすると設定したプリンタが共有指定されています。**




**次に次ページの［2．ネットワークプリンタの設定］を行ってください。**

## ２．ネットワークプリンタの設定
## （プリンタが接続されていないパソコンでの設定）

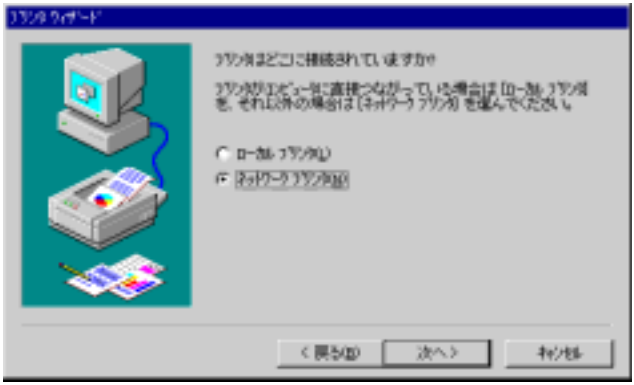
ここでは、プリンタが接続されていないパソコン（＜設定例＞(P23)）での鈴木氏、佐藤氏でのパソコン）からローカルプリンタ（＜設定例＞での橋本氏のプリンタ）を使用するためのネットワークプリンタの設定について説明します。

注 意

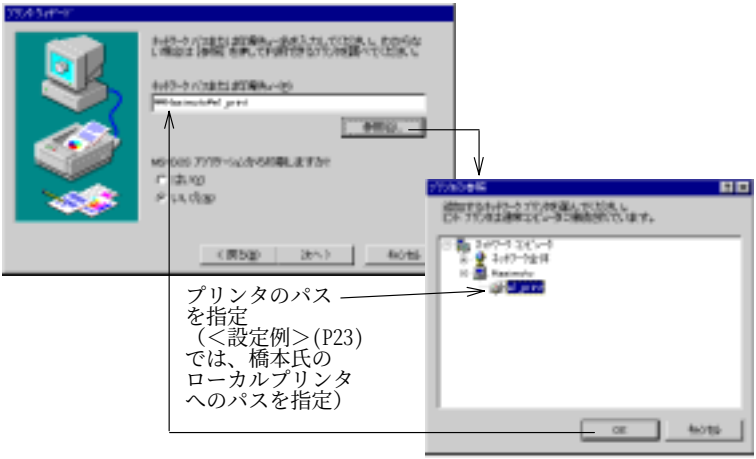
ネットワークプリンタを使用するには、「１．ローカルプリンタの設定」(P30)でのローカルプリンタが設定済みである必要があります。

**1** 『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ﾌﾟﾘﾝﾀ』の「ﾌﾟﾘﾝﾀの追加」アイコンをダブルクリックします。『ﾌﾟﾘﾝﾀ ｳｨｻﾞｰﾄﾞ』画面が表示されます。[次へ]ボタンをクリックします。

**2** 「ﾌﾟﾘﾝﾀはどこに接続されていますか?」では、「ﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾘﾝﾀ」を選択後、[次へ]ボタンをクリックします。



**3** 「ﾈｯﾄﾜｰｸﾊﾟｽまたは印刷ｷｭｰ....」では、ネットワークパス（ローカルプリンタへのパス名）を指定し、[次へ]ボタンをクリックします。
（わからない場合は、[参照]ボタンでローカルプリンタが接続されているパス名（＜設定例＞(P23)での橋本氏のプリンタへのパス名）を選択後、[OK]ボタンをクリックすれば設定できます。）




**4** 「ﾌﾟﾘﾝﾀ名」を入力後、[次へ]ボタンをクリックします。

**5** 「ﾃｽﾄﾍﾟｰｼﾞを印刷しますか?」では、テストページを印刷する場合は「はい」を、しない場合は「いいえ」を選択後[完了]ボタンをクリックします。
ファイルのコピーを開始します。

注 意

**Windows95のCD-ROMを要求された場合、CD-ROMを準備して**
**d:\win95　（CD-ROMドライブがDドライブの場合）**
**と入力し、画面の指示に従ってください。（FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。）**

**『ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』画面の「ﾌﾟﾘﾝﾀ」アイコンをダブルクリックします。**
**設定したプリンタが表示されています。**

**以上でプリンタの共有の設定は終了です。**

## 3.2.2　メールの設定

**Windows95を利用すれば、Windows95からの他のネットワークとのメールのやり取りが簡単に行えます。**
**ここでは、ピア･ツー･ピア接続をしているパソコン同士を前提として、メールのやり取りの設定及び簡単な送受信の例を説明します。詳細は、Windows95の取扱説明書やヘルプを参照してください。**

**メールをやり取りするには、以下の順序で設定が必要です。**

**1.メールのポストオフィス管理者（メールを管理する人）の設定**

**① メール管理用のポストオフィスのフォルダの作成･設定**

**② 「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」のインストール及び設定**

**③ ユーザー登録**

**2.メールユーザー（メールを使用する人）の設定**

**① 受信トレイの設定**

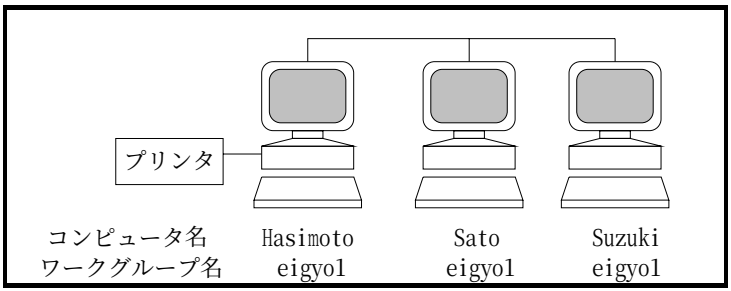
参 考

**メールの送受信は、ポストオフィスという一種のデータベースを通して送信（ポストオフィスへの書き込み）、受信（ポストオフィスからの読み込み）を行います。**

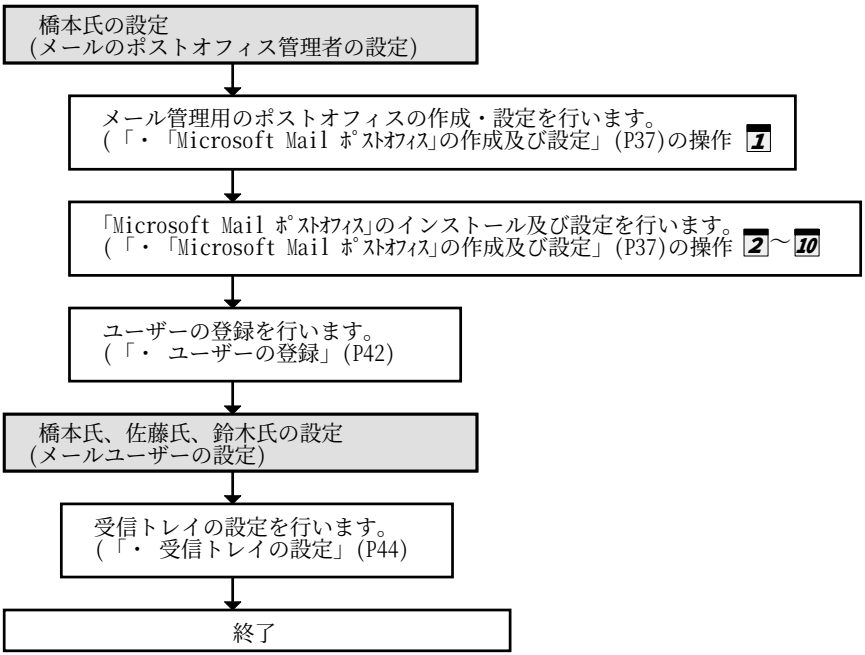
**＜設定例＞**

| No | 所属 | 名前 | 使用OS | ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名 | ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ名 | ﾒｰﾙ管理及びﾕｰｻﾞｰ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 営業1課 | 橋本 | Windows95 | Hasimoto | eigyou1 | 管理者及びﾕｰｻﾞｰ |
| 2 | 営業1課 | 佐藤 | Windows95 | Sato | eigyou1 | ﾕｰｻﾞｰ |
| 3 | 営業1課 | 鈴木 | Windows95 | Suzuki | eigyou1 | ﾕｰｻﾞｰ |

**＜構成＞**



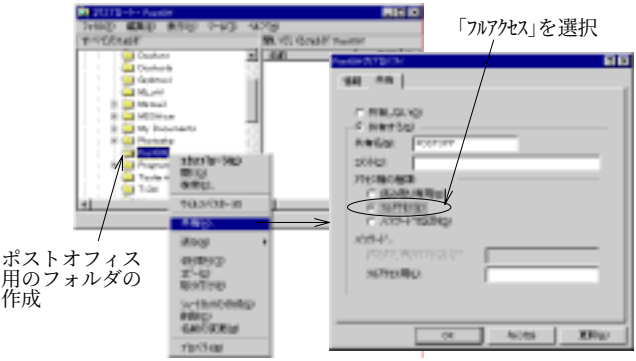
## ＜作業手順＞


橋本氏の設定
(メールのポストオフィス管理者の設定)
メール管理用のポストオフィスの作成・設定を行います。
(「・「Microsoft Mail ポストオフィス」の作成及び設定」(P37)の操作 1
「Microsoft Mail ポストオフィス」のインストール及び設定を行います。
(「・「Microsoft Mail ポストオフィス」の作成及び設定」(P37)の操作 2～10
ユーザーの登録を行います。
(「・ ユーザーの登録」(P42)
橋本氏、佐藤氏、鈴木氏の設定
(メールユーザーの設定)
受信トレイの設定を行います。
(「・ 受信トレイの設定」(P44)
終了

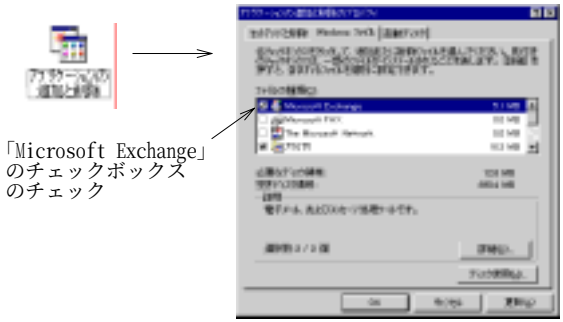
## • 「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定

**ここでは、メール管理者(＜設定例＞(P35)での橋本氏)での「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定について説明します。**

**1** **まず、メールを管理するためのワークグループのポストオフィスのフォルダの作成と共有指定を行います。エクスプローラ等でフォルダを作成後、他のメールユーザーから読み書きできるように「ﾌﾙｱｸｾｽ」での共有設定を行ってください。(共有の設定については、[3.2.1] の「・ 共有の指定」(P27)及び「・ ファイルの共有設定」(P28)を参照してください。)**




**2** **『Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ』のインストールを行います。『Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ』のインストールは、「Microsoft Exchange」のインストールで行います。**
**『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』の「ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの追加と削除」アイコンをダブルクリックし、『ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの追加と削除のﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の[Microsoft Exchange]チェックボックスをチェックし、[OK]ボタンをクリックしてください。[Microsoft Exchange]のファイルのコピーを開始します。**



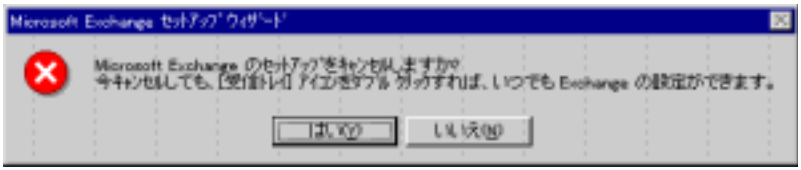
注 意

**Windows95のCD-ROMを要求された場合、CD-ROMを準備して**
**d:\win95　（CD-ROMドライブがDドライブの場合）**
**と入力し、画面の指示に従ってください。（FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。）**

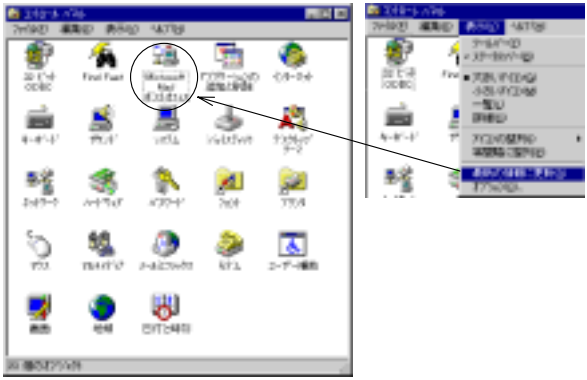
**3** **『受信ﾄﾚｲ ｾｯﾄｱｯﾌﾟｳｨｻﾞｰﾄﾞ』画面が表示されます。ポストオフィスのセットアップを終了しないとメールは使用できませんので、メール管理者のパソコンでは受信トレイの設定を中断し、ポストオフィスの設定に移ります。**
**そのためここでは、[ｷｬﾝｾﾙ]ボタンをクリックし、受信トレイのセットアップを中止します。**

「ｷｬﾝｾﾙ」を選択

**4** **「Microsoft Exchange のｾｯﾄｱｯﾌﾟをｷｬﾝｾﾙしますか?」では、[はい]ボタンをクリックします。**



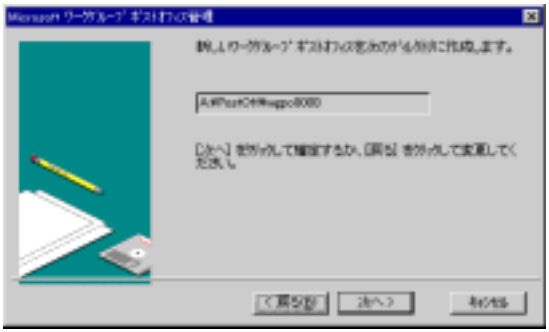
**5** 『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』に『Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ』アイコンが登録されています。(表示されていない場合は、「表示」メニューの「最新の情報を更新」を選択すれば表示されます。)
『Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ』アイコンをダブルクリックします。



**6** 「Microsoft ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ管理」画面が表示されます。
新規にポストオフィスを作成しますので、「新しいﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽを作成する」を選択して、[次へ]ボタンをクリックしてください。

**7** **「ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽを作成する場所」の指定では、手順1で作成したフォルダのパスを指定してください。**
**([参照]ボタンでもポストオフィスを作成した場所を指定できます。)**

**8** **「新しいﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽを次のﾃﾞｨﾚｸﾄﾘに作成します。」では、[次へ]ボタンをクリックします。**
**変更する場合は、[戻る]ボタンで再度指定し直してください。**



**9** **「ｱｶｳﾝﾄの詳細を入力」画面が表示されます。**
**「名前」、「ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ」、「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」等を入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。**

メール管理者の名前を入力します。
この名前は、メール管理用です。
Windows95のユーザー名と同じでなくても
かまいません。

個人用のメールボックスです。
英数字しか使えません。

パスワードを入力します。
メール専用のパスワードです。このパス
ワードは、Windows95のユーザー名のパス
ワードと同じでなくてもかまいません。

電話番号、事業所、部署、ﾒﾓを入力します。
これらの項目は、コメントです。
メールの動作には、影響しません。

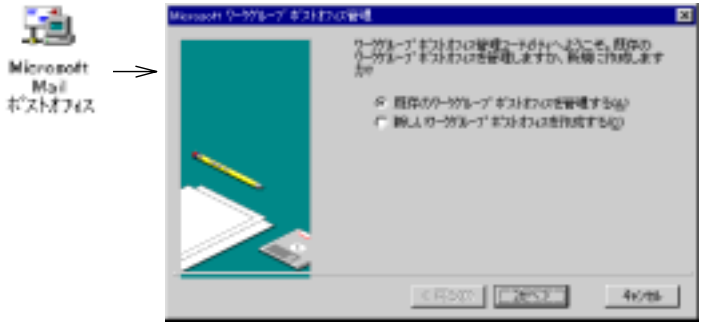
**10** **「...にﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽが作成されました。」では、[OK]ボタンをクリックします。**
**ワークグループのポストオフィスが作成されました。**

**以上でワークグループのポストオフィスの作成は終了です。**

## • ユーザーの登録

**メールを使用するためには、メール管理者(＜設定例＞(P35)での橋本氏)がメールを使用するユーザー全員の登録を行う必要があります。**
**「・「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定」(P37)で作成したポストオフィスにメールを使用するユーザーの登録を行います。**

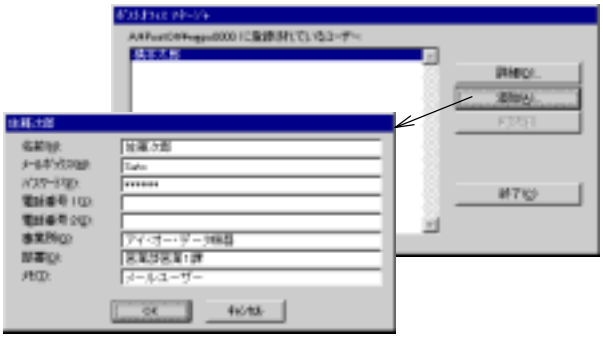
**1** **『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』の『Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ』アイコンをダブルクリックします。**
**『Microsoft ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ管理』画面では、「・「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定」(P37)でポストオフィスは作成しましたので、「既存のﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽを管理する」を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。**




**2** **「管理するﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟのﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽの場所を指定してください。」では、表示されているフォルダでよければ[次へ]ボタンをクリックしてください。**
**(最初の表示は、「・「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定」(P37)で作成したフォルダです。)**

**3** 「ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ」と「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」の入力では、「・「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定」の手順9(P41)で指定したメール管理者の「ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ」と「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」を入力します。
（入力した「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」は「*****」と表示されます。）

**4** 登録するユーザーの設定を行います。
[追加]ボタンで、メールを使用するすべてのユーザーの追加を行ってください。「名前」、「ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ」、「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」は必ず入力が必要です。
すべてのユーザーの追加を終了後、[終了]ボタンをクリックしてください。



＜設定例＞(P35)では以下を追加します。

| No | 名前 | ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ | ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ |
|---|---|---|---|
| 1 | 佐藤次郎 | Sato | PASSWORD |
| 2 | 鈴木三郎 | Suzuki | PASSWORD |

「名前」,「ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ」,「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」は、メール専用です。

以上で、ユーザー登録は終了です。

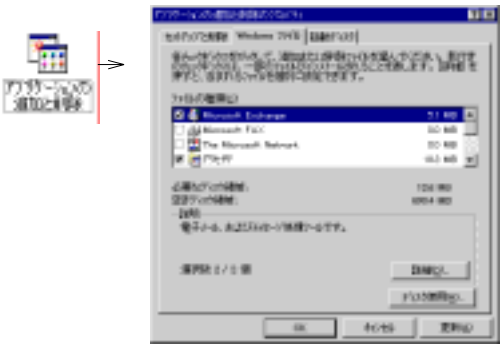
## • 受信トレイの設定

「・「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定」及び「・ ユーザーの登録」でメール管理者の設定が終了しましたので、次にメールを使用するユーザー側の設定を行います。
メールを使用する前に[受信ﾄﾚｲ]の設定を行います。メールを使用するユーザー全員が設定を行う必要があります。

注 意

メール管理者(＜設定例＞(P35)での橋本氏)がメールを使用する場合は、デスクトップ上の「受信ﾄﾚｲ」アイコンをダブルクリック後、次ページの操作3からの手順となります。

**1** まず、[Microsoft Exchange]のインストールを行います。
『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』の「ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの追加と削除」アイコンをダブルクリックし、『ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの追加と削除のﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の[Microsoft Exchange]チェックボックスをチェックし、[OK]ボタンをクリックしてください。[Microsoft Exchange]のファイルのコピーを開始します。

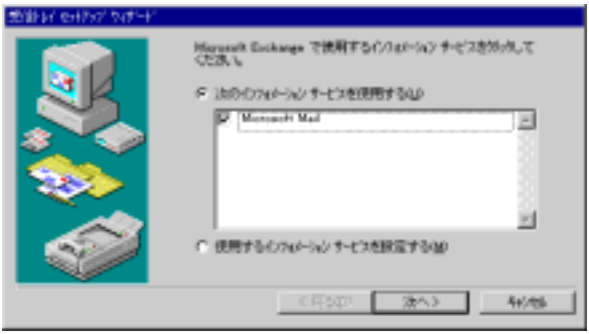


注 意

途中でWindows95のCD-ROMを要求された場合、CD-ROMを準備して
d:\win95　(CD-ROMドライブがDドライブの場合)
と入力し、画面の指示に従ってください。(FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。)

**2** 『受信ﾄﾚｲｾｯﾄｱｯﾌﾟｳｨｻﾞｰﾄﾞ』画面が表示されます。[いいえ]を選択後、[次へ]ボタンをクリックします。

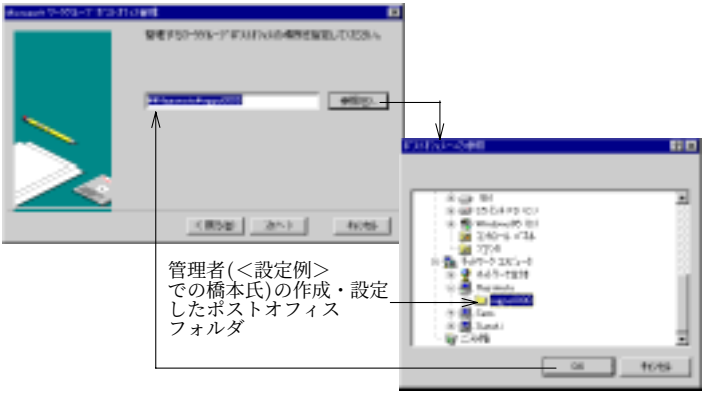
**3** 「Microsoft Exchange で使用するｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｻｰﾋﾞｽをｸﾘｯｸしてください。」では、使用するインフォメーションサービスを選択してください。
選択後、[次へ]ボタンをクリックしてください。



参考

Windows95のインストール時に「The Microsoft Network」をインストールしていれば、使用するインフォメーションの一覧に「The Microsoft Network」の項目が追加されています。
また、「Microsoft PLUS!」をインストールしていれば、「ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ﾒｰﾙ」の項目が追加されています。
「The Microsoft Network」及び「ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ﾒｰﾙ」の設定については Windows95のマニュアルやヘルプをご覧ください。

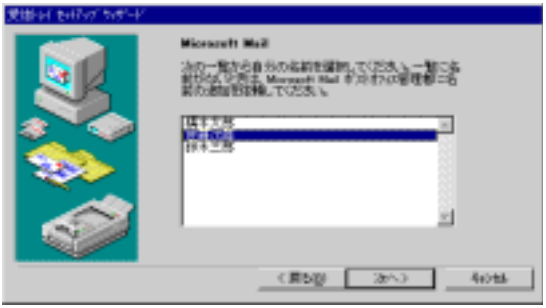
**4** 「....ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽの場所を指定してください。」では、管理者が設定したポストオフィスの場所（フォルダ）のパスを指定します。（わからない場合は、管理者に確認し、[参照]ボタンで管理者のポストオフィスのパスを指定してください。）




注 意

管理者のポストオフィスのフォルダを共有指定にしていない場合は、ポストオフィスに接続できません。ポストオフィス管理者に確認してください。

**5** 名前の一覧表示の画面では、自分の名前を選択し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



注 意

名前の一覧に自分の名前がない場合は、ポストオフィス管理者に名前の追加を依頼してください。

**6** **[ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ]入力画面になります。管理者が設定したパスワードを入力してください。パスワードがわからなければ、管理者に確認してください。**

**パスワードは、管理者が設定した（「・ ユーザーの登録 での手順4(P43)で設定した）パスワードです。**

注 意

**7** **「個人用ｱﾄﾞﾚｽ帳のﾊﾟｽを入力してください。」では、個人用のアドレス帳を作成するパスを入力してください。表示の内容でよければ、[次へ]ボタンをクリックしてください。（変更する場合は、[参照]ボタン等で変更してください。）**

**個人用アドレス帳とは、ﾒｰﾙの送信する相手の宛先などを書き留めた住所録です。相手の宛先を手入力などせず、マウス操作で簡単に行うためのものです。**

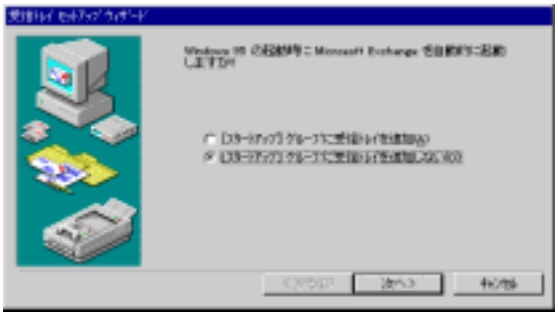
注 意

**8** 「個人用ﾌｫﾙﾀﾞﾌｧｲﾙ(PSTﾌｧｲﾙ)のﾊﾟｽを入力してください。」では、個人用フォルダを作成するパスを入力してください。表示の内容でよければ、[次へ]ボタンをクリックしてください。（変更する場合は、[参照]ボタン等で変更してください。）

参考

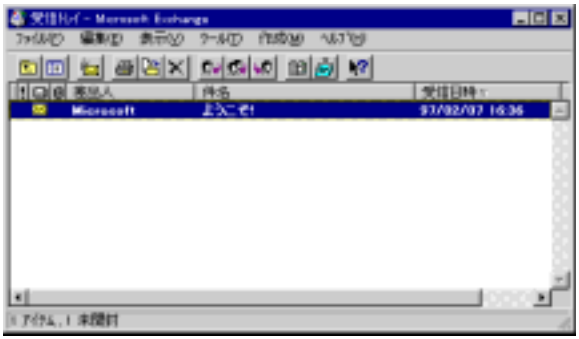
メールの送受信は、まず個人用フォルダを通してメールのやり取りを行います。

**9** 「Windows 95 の起動時に Microsoft Exchange を自動的に起動しますか?」では、[ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ]グループに受信ﾄﾚｲを追加する場合（Windows95起動時に自動的に受信トレイを開いてメールを確認する場合）は「...追加」を、追加しない場合は「...追加しない」を選択してください。



**10** 「ｾｯﾄｱｯﾌﾟ」が完了しました。」では、[終了]ボタンをクリックしてください。

**11** 「受信ﾄﾚｲ」アイコンをダブルクリックすると、Microsoftよりメールが届いています。
メールを選択し、ダブルクリックしてメールの内容を確認してみてください。




以上でメールユーザー側の設定は終了です。

## • メールの送受信

**それでは、実際にメールの送信及び受信をしてみましょう。まず、送信側でメールを作成・送信し、次に受信側でメールを受信できたか確認を行います。ここでは、佐藤氏から橋本氏へのテストデータ送受信の例で説明しています。**

### 1．メールの送信

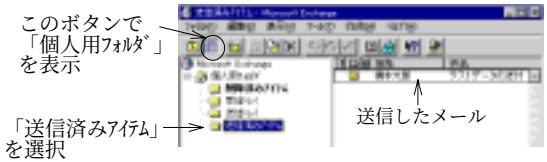
**1** **メールを作成して送信してみましょう。**
**「受信ﾄﾚｲ」アイコンをダブルクリックして「受信ﾄﾚｲ」画面を起動します。**
**「受信ﾄﾚｲ」画面の送信メールの作成ボタンをクリックするか、「作成」メニューの「ﾒｯｾｰｼﾞの作成」を選択してメールをまず作成します。**

**2** **メール本文に送信したいメッセージを入力します。**
**本文入力後、宛先、件名を入力後、送信ボタンをクリックします。メールが送信されます。**

参照

**メールでは文字だけでなく、絵やファイル等も添付できます。詳細に関しては、ヘルプを参照してください。**

**3** **送信側で「メールは送信済みか」を確認します。「個人用ﾌｫﾙﾀﾞ」での「送信済みｱｲﾃﾑ」を選択します。送信したメールが右に表示されています。**



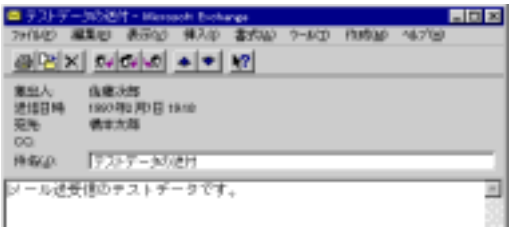
## ２．メールの受信

**1** **今度は、受信側での確認です。以下の①、②でメールを受信しているか確認できます。（送信後から受信するまでにかなりの時間がかかる場合もあります。）**

**①「受信ﾄﾚｲ」アイコンをダブルクリックしてメールを受信しているか確認してみます。**

**② 受信したメールは、[個人用ﾌｫﾙﾀﾞ]の[受信ﾄﾚｲ]を選択しても確認できます。**

**2** **受信したメールをダブルクリックすれば、受信メールの内容を確認できます。**




**以上でメールの送信及び受信は終了です。**

# 3.3 各種ネットワークシステムへの接続

Windows95では、Microsoft社よりNovel NetWare,Microsoft WindowsNT,IBM LanServer for OS/2,Banyan Vines,DEC Pathworks等にアクセスするためのクライアント機能及びプロトコルが標準装備されています。また、Windows95同士のピア・ツー・ピア接続も簡単に行えます。
また、ネットワークへのログイン作業も、ユーザID及びパスワードをログインしたいネットワーク（サーバ）をすべて同一にしておけば、1つのネットワークにログインすれば、自動的に他のネットワーク（サーバ）にログインできます。

ここでは、

各種ネットワークシステムにクライアントとして接続するための手順

・NetWareサーバへの接続（【3.3.1】(P53)参照）

・WindowsNTサーバへの接続（【3.3.2】(P58)参照）

について説明します。
NetWareサーバ及びWindowsNTサーバにクライアントとして接続する場合は、事前にネットワークシステム管理者にユーザー登録を行ってもらう必要があります。その時点で、「ユーザーID」及び「パスワード」を取得してください。
また、サーバへの接続のためにサーバ名（WindowsNTではドメイン名）も確認する必要があります。詳しくは、ネットワークシステム管理者にご確認ください。

## 3.3.1　NetWareサーバへの接続

ここでは、NetWareサーバでのWindows95のクライアント設定について説明します。

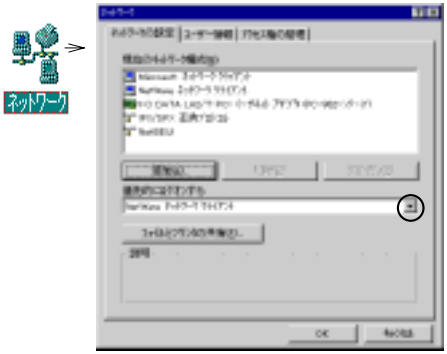
注 意

**Windows95バージョン4.00.950または950aをお使いの場合**
**（Windows95のバージョンの確認は、P9を参照してください。）**
Microsoftから提供されるNetWareクライアントは、NetWare 3.1xJのバインダリに対応した機能しかありません。NetWare 4.1J/4.11Jから提供されるNetWareディレクトリサービス（NDS）には対応していません。そのため、NetWare 4.1J/4.11Jサーバにログインするためには、サーバ側でバインダリエミュレーションを実行している必要があります。（NetWare 4.1J/4.11Jのインストールでは、自動的にデフォルト設定されています。）
なお、Microsoft社とNovell社よりNetWare 4.1J/4.11JのNDSに対応したクライアントプログラムが、Web等で公開されています。これを利用することもできます。
（**Windows95バージョン4.00.950 Bをお使いの場合**は、NDSに対応していますので特に設定等はありません。）

## • 接続の設定

**1** **『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ　ﾊﾟﾈﾙ』を選択し、「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックします。『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面が表示されます。**
**「優先的にﾛｸﾞｲﾝする」は、「NetWare　ﾈｯﾄﾜｰｸ　ｸﾗｲｱﾝﾄ」を設定してください。**

《PC-9821シリーズの場合の表示例》



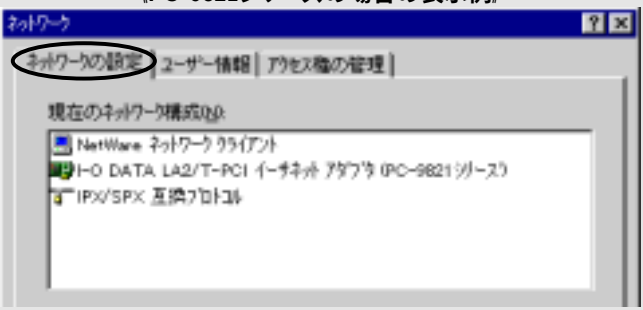

[▼]ボタンで「NetWare ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄ」を設定

参考

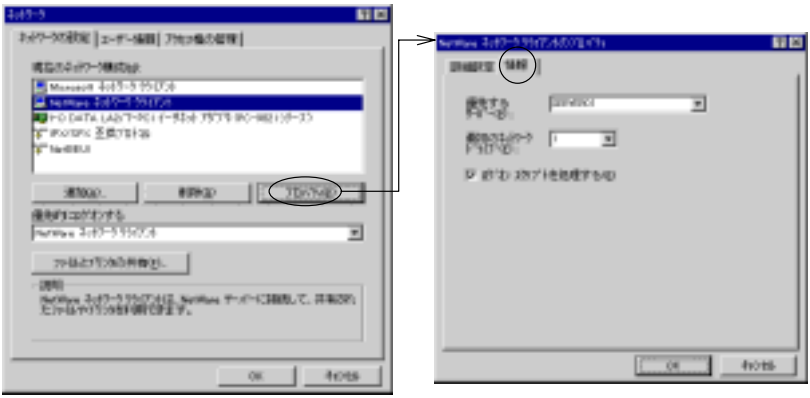
**NetWareのみの環境を使用する場合は、『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の「現在のﾈｯﾄﾜｰｸ構成」には、以下の3つが設定されていれば使用できます。**

**1.クライアントには「NetWare　ﾈｯﾄﾜｰｸｸﾗｲｱﾝﾄ」**
**2.アダプタには**
**「I-O DATA LA2/T-PCI ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」(PC-9821シリーズの場合)**
**「PCI Ethernet DECchip 21040 Based Adapter」(DOS/Vマシンの場合)**
**3.プロトコルには「IPX/SPX　互換ﾌﾟﾛﾄｺﾙ」**

**《PC-9821シリーズの場合の表示例》**



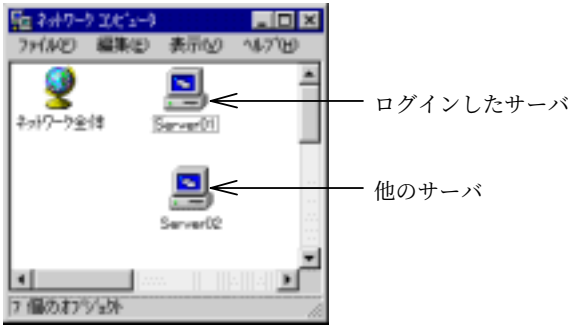
**2** 「現在のﾈｯﾄﾜｰｸ構成」の「NetWare ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄ」を選択後、[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]ボタンをクリックします。『NetWare ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面が表示されます。「情報」タブをクリックします。
「優先するｻｰﾊﾞｰ」、「最初のﾈｯﾄﾜｰｸﾄﾞﾗｲﾌﾞ」及び「ﾛｸﾞｲﾝｽｸﾘﾌﾟﾄの処理」の設定を行います。（設定内容に関しては、ネットワークシステム管理者にご相談ください。）
設定後、[OK]ボタンをクリックします。
『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の[OK]ボタンをクリックします。
一旦Windows95を再起動します。



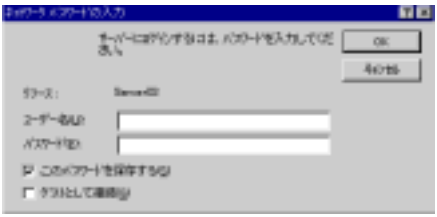
**3** 再起動後、起動途中で手順2で設定した「優先するｻｰﾊﾞｰ」で指定したログインサーバでの『ﾈｯﾄﾜｰｸ ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの入力』画面が表示されます。
ユーザー登録した「ﾕｰｻﾞｰ名」及び「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」を入力後、[OK]ボタンをクリックしてください。クリック後、Windows95の起動を続行します。

**4** **起動後、デスクトップ上の「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンをダブルクリックすると、現在ログインしているサーバが、「ﾈｯﾄﾜｰｸ全体」アイコンの横に表示されています。ログインしているサーバのアイコンをダブルクリックすることでサーバ上で設定されたアクセス権（トラスティ）で許されているファイルやフォルダにアクセスできます。**

**（画面は、「Server01」サーバが表示されている例）**




**他のNetWareサーバにアクセスするには、「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」上のログインしたいサーバをダブルクリックします。「ﾕｰｻﾞｰ名」及び「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」を入力し、[OK]ボタンをクリックすればアクセスできます。**



## • ネットワークドライブのマップ

**ここでは、ドライブポインタが必要なアプリケーションのためのドライブのマッピング方法について説明します。**

**1** **デスクトップ上の「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンをダブルクリックします。ドライブマッピングを行いたいフォルダを右クリックし、メニュー内の「ﾈｯﾄﾜｰｸﾄﾞﾗｲﾌﾞの割り当て」を選択します。**

**2** **「ﾄﾞﾗｲﾌﾞ」のところに使用していないドライブを割り当てます。「ﾛｸﾞｵﾝ時に再接続」のチェックボックスのチェックを行えば、次回そのサーバにログインした時に、そのドライブにマッピングを行います。**

**以上でNetWareサーバでのWindows95のクライアント接続の設定は終了です。**

## 3.3.2　WindowsNTサーバへの接続

**ここでは、WindowsNTサーバでのWindows95のクライアント設定について説明します。**

### • 接続の設定

**1** **『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ　ﾊﾟﾈﾙ』を選択し、「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックします。『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面が表示されます。**
**「優先的にﾛｸﾞｲﾝする」は、「Microsoft　ﾈｯﾄﾜｰｸ　ｸﾗｲｱﾝﾄ」を設定してください。**

《PC-9821シリーズの場合》

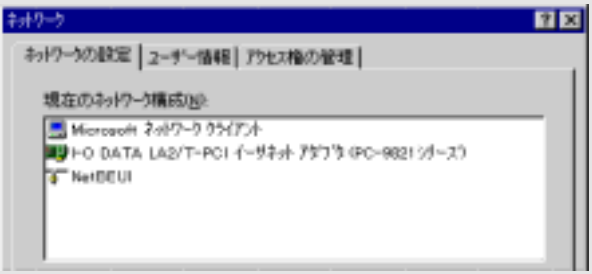
[▼]ボタンで「Microsoft ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄ」を設定

参考

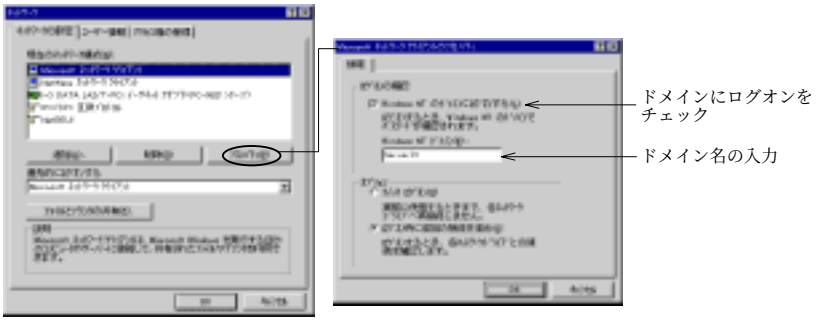
**WindowsNTのみの環境を使用する場合は、『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の「現在のﾈｯﾄﾜｰｸ構成」には、以下の3つが設定されていれば使用できます。**

**1.クライアントには「Microsoft　ﾈｯﾄﾜｰｸｸﾗｲｱﾝﾄ」**
**2.アダプタには**
**「I-O DATA LA2/T-PCI ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」(PC-9821シリーズの場合)**
**「PCI Ethernet DECchip 21040 Based Adapter」(DOS/Vマシンの場合)**
**3.プロトコルには「NetBEUI」**

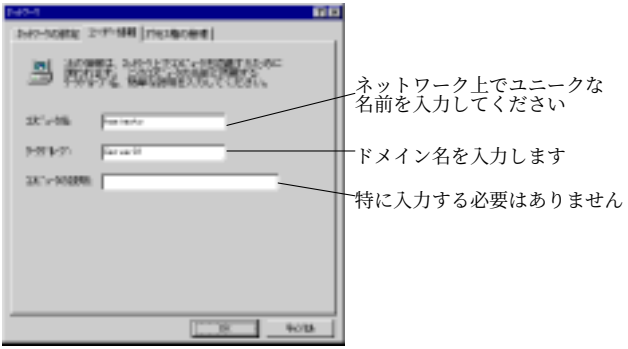
**《PC-9821シリーズの場合》**



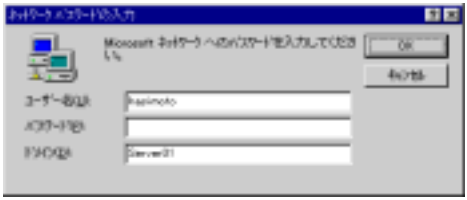
**2** 「現在のﾈｯﾄﾜｰｸ構成」の「Microsoft ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄ」を選択後、[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]ボタンをクリックします。『Microsoft ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面が表示されます。
WindowsNTのドメインに参加する場合は、「ﾈｯﾄﾜｰｸの設定」での「Windows NT のﾄﾞﾒｲﾝにﾛｸﾞｵﾝする」のチェックボックスのチェック、「Windows NT ﾄﾞﾒｲﾝ」名の入力、「ｵﾌﾟｼｮﾝ」の各設定を行います。
（設定内容に関しては、ネットワークシステム管理者にご相談ください。）
設定後、[OK]ボタンをクリックします。




**3** 『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の「ﾕｰｻﾞ情報」の設定を行います。
「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名」、「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ」、「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの説明」の各設定を行います。WindowsNTのドメインに参加する場合、「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ」は、手順2で設定した「Windows NT ﾄﾞﾒｲﾝ」と同じドメイン名を設定してください。それ以外の場合は、ネットワークを使用するグループで決めたユニークな名前を入力してください。（その他の設定内容に関しては、ネットワークシステム管理者にご相談ください。）

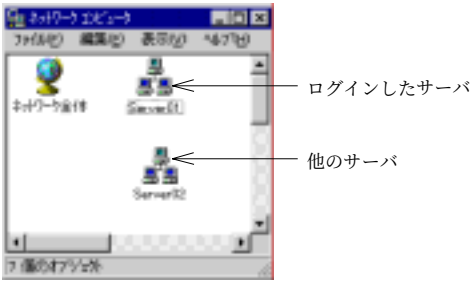


**4** **再起動後、起動途中で手順2で設定した「Windows NT ﾄﾞﾒｲﾝ」名で指定したドメインでの『ﾈｯﾄﾜｰｸ ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの入力』画面が表示されます。**
**ユーザー登録した「ﾕｰｻﾞｰ名」及び「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」を入力後、[OK]ボタンをクリックしてください。クリック後、Windows95の起動を続行します。**



**5** **起動後、デスクトップ上の「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンをダブルクリックすると、現在ログインしているサーバが、「ﾈｯﾄﾜｰｸ全体」アイコンの横に表示されています。ログインしているサーバのアイコンをダブルクリックすることでサーバ上で設定されたアクセス権（トラスティ）で許されているファイルやフォルダにアクセスできます。**

**（画面は、「Server01」サーバが表示されている例）**




**以上でWindowsNTサーバでのWindows95のクライアント接続の設定は終了です。**

## 3.3.3 LANtastic for Windows95へのセットアップ

**【2.4 動作確認】(P12)を参照して正常に動作することを確認の上、Windows95を起動してください。【3.1 インストール方法】(P15)を参照して**
**LA2/T-PCIのドライバのインストールを行ってください。**
**インストール終了後、パソコンを再起動した後に、「LANtastic for Windows95」のインストールを行ってください。**

**「LANtastic for Windows95」のインストール方法その他詳細は、「LANtastic for Windows95」のマニュアルを参照してください。**

# 第4章 他のOSで使用するには

この章では、第2章で取り付けたLA2/T-PCIをMS-DOS,Windows3.1,WindowsNTでの各種NOS環境で使用する場合の設定について説明します。

## 4.1 MS-DOS及び日本語Windows3.1へのセットアップ

### 4.1.1 NetWare 3.12J/4.1J/4.11Jへのセットアップ

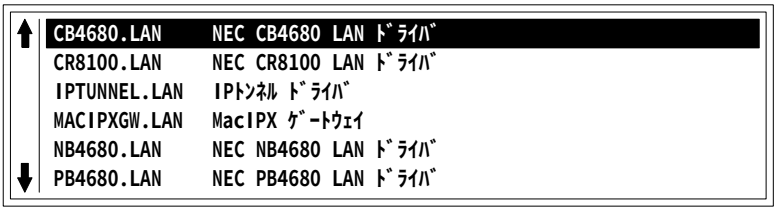
NetWareサーバでLA2/T-PCIの設定をする場合は本ページ以降を、NetWareクライアントでLA2/T-PCIの設定をする場合は「● クライアントの設定」65ページ以降を参照してください。

#### ● サーバの設定

ドライバをインストールする前に、MS-DOS上で診断プログラムを動作させてアダプタが正常である事を確認してください。

- **NetWare4.1J/4.11Jサーバのインストール時の場合**

1 ネットワークドライバの設定画面で[Ins]キーを押し、「リストにないドライバ」のインストールを行います。

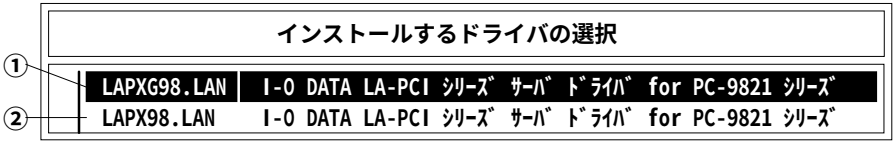

CB4680.LAN NEC CB4680 LAN ﾄﾞﾗｲﾊﾞ
CR8100.LAN NEC CR8100 LAN ﾄﾞﾗｲﾊﾞ
IPTUNNEL.LAN IPﾄﾝﾈﾙ ﾄﾞﾗｲﾊﾞ
MACIPXGW.LAN MacIPX ｹﾞｰﾄｳｪｲ
NB4680.LAN NEC NB4680 LAN ﾄﾞﾗｲﾊﾞ
PB4680.LAN NEC PB4680 LAN ﾄﾞﾗｲﾊﾞ

リストにないドライバのインストール<Ins>

**2** 「LA-PCIシリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し、スキャンするパスと同じならそのまま・キーを押し、異なる場合は[F3]キーを押してディレクトリパス（フロッピィディスクドライブ名のみ）を入力してください。

**3** 『インストールするドライバの選択』で以下のように表示されていることを確認して、NetWare 4.11Jのドライバをご利用になる場合は①を、NetWare 4.1Jのドライバをご利用になる場合は②を選択してください。

（PC-9821版の場合）



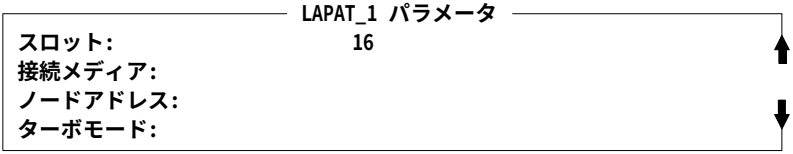

（DOS/Vマシンの場合）

**4** スロット番号を設定してください。

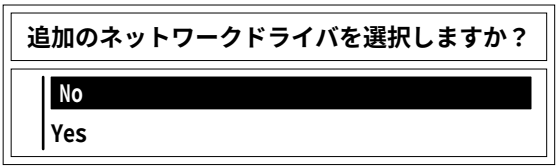
注 意

LA2/T-PCIで4.1J/4.11Jをご利用になる場合は、利用するドライバによってスロット番号が異なります。スロット番号がわからない場合は、番号を入力せずにドライバをロードします。サーバは、プロンプトに使用可能なスロット番号を表示しますので、その値を使用してください。

（例:DOS/Vマシンの場合）



**5** さらにLAシリーズを追加する場合は、「追加のネットワークドライバを選択しますか？」の画面で「Yes」を選択すると**1**～**5**を繰り返します。




以上で設定は終了です。

## • NetWare4.1J/4.11Jサーバへ追加設定する場合

**1** システムコンソールから

xxxx:LOAD INSTALL・　　（下線部入力）

と入力し、「ドライバオプション」-「ネットワークドライバの設定」-「追加ドライバの選択」を選択してください。

**2** 後は、「・ NetWare4.1J/4.11Jサーバのインストール時の場合」を参照してインストールしてください。追加ドライバに対する操作で「追加ドライバの選択」を選択してください。

## • NetWare3.12Jサーバの場合

**1** サーバマシンでMS-DOSを起動してください。（サーバマシンですでにNetWareが起動している場合は、ユーザーに通知してからシャットダウンしてください。）

**2** 「LA-PCIシリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し、フロッピィドライブのnetware\server\4.1Jディレクトリから NetWare3.12Jサーバがインストールされているディレクトリ（通常はserver.312）に必要なNetWareサーバ用ドライバをコピーしてください。

PC-9821シリーズの場合

```
copy c:\netware\server\4.1J\lapx98.lan a:\server.312
```

DOS/Vマシンの場合

```
copy a:\netware\server\4.1J\lapxat.lan c:\server.312
```

**3** NetWare3.12Jサーバを起動して、システムコンソールから

xxxx:LOAD INSTALL・　　（下線部入力）

と入力してください。

**4** 表示されているメニューから「ｼｽﾃﾑｵﾌﾟｼｮﾝ」-「AUTOEXEC.NCFﾌｧｲﾙの編集」を選択し、下記の2行を追加してください。

（例:LA2/T-PCI DOS/Vマシンでｲｰｻﾈｯﾄ802.2[ﾌﾚｰﾑﾀｲﾌﾟ]を使用する場合）

```
load c:\server.312\lapxat slot=yyyyy frame=ethernet_802.2   name= lapxat_1_e82

bind ipx to lapxat_1_e82 net=xxxx
```

下線部は同じにしてください。

（yyyyyは16番から割り当ててください。）

（xxxxはNetWareの環境によって異なります。）

以上でインストールは終了です。NetWare3.12Jを再起動すると有効になります。

注意

1) NetWare3.12Jサーバの設定は複雑です。詳細はNetWareなどの取扱説明書を参照してください。

2) autoexec.ncfに変更を加えた場合は、その環境を有効にするために必ずNetWare3.12Jサーバを再起動してください。

## ● クライアントの設定

すでにNetWareのクライアント環境が存在し、LA2/T-PCI用に変更を加える場合は、lasetup.exeを起動し、「NetWareドライバのコピー」を選択してセットアップを行ってください。

NetWareで使用するNET.CFGは、lasetup.exeを起動し、「NetWareクライアントのセットアップ」を使用してインストールを行うことにより自動的にLA2/T-PCIの情報が記述されます。その他の設定変更に関しては（FIRST NETWORK DRIVEはデフォルトでHドライブに設定されています。）、お手元のエディタで行ってください。

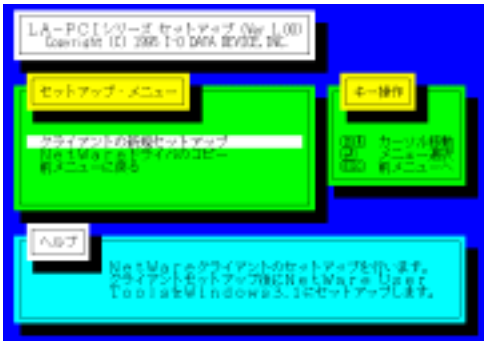
参考

1)サーバへの接続にはネットワークシステム管理者が決めた仕様に伴い、NET.CFGの変更が必要になる場合があります。詳細はネットワークシステム管理者にご相談ください。
2)NetWareに添付されているインストールプログラムを使用する場合、「LA-PCIシリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し、ドライバの読み込み先は **C:\netware\dosodi**（フロッピィディスクドライブがCドライブの場合）と指定してください。

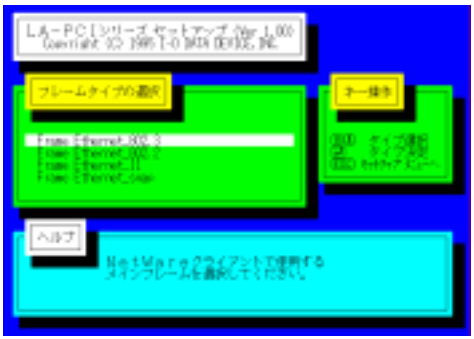
**MS-DOSの環境のみで使用する場合は以下を、Windows3.1とMS-DOSの環境で使用する場合は「Windows3.1とMS-DOSの環境で使用する場合」(P68)を参照してください。**

## MS-DOSの環境のみで使用する場合

**1** **lasetup.exeを起動して「NetWareクライアントのセットアップ」ー「クライアントの新規セットアップ」を選択し、画面の指示に従ってセットアップを行ってください。**




**2** **「フレームタイプの選択」は、接続するNetWareサーバのタイプに合わせてください。指定のディレクトリ（デフォルトはPLANT）にNetWareのドライバと起動用バッチファイル［startnet.bat］がインストールされます。**




参考

**フレームタイプに関する詳細はネットワークシステム管理者にご相談ください。**

**3** 「自動起動文の追加」で「追加を行わない」を選択した場合、autoexec.batに直接起動用のコマンドを記述するか、DOSプロンプトからstartnetと入力してください。
また、「追加を行う」を選択した場合、autoexec.batに

@CALL A:\PLANT\STARTNET.BAT　(PC-9821シリーズの場合)
@CALL C:\PLANT\STARTNET.BAT　(DOS/Vマシンの場合)
(指定したディレクトリがPLANTの場合)

が追加されます。

自動起動文の有無に関わらず、

config.sysには、LASTDRIVE=Z

autoexec.batには、PATH=A:\PLANT;%PATH%(PC-9821シリーズの場合)
PATH=C:\PLANT;%PATH%(DOS/Vマシンの場合)
(指定したディレクトリがPLANTの場合)

が追加されます。

参考

サーバへの接続にはネットワークシステム管理者が決めた仕様に伴い、コマンドオプションが必要な場合があります。詳細はネットワークシステム管理者にご相談ください。

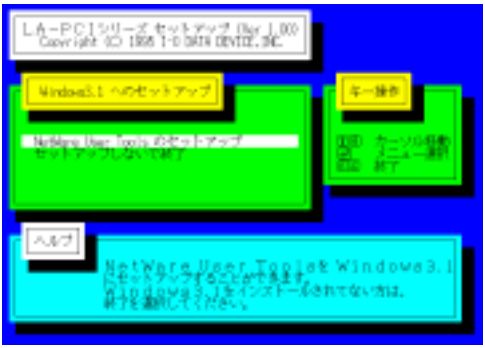
以上でインストールは完了です。セットアップを終了し再起動してください。

注意

DOS/Vマシンのマルチコンフィグ機能には対応していません。

## Windows3.1とMS-DOSの環境で使用する場合

「MS-DOSの環境のみで使用する場合」(P66)と同様な作業を行った後、「NetWare User Toolsのセットアップ」を選択し、画面の指示に従って作業を行ってください。



参考

『NetWare User Tools』のみをインストールする場合は、NetWare User Tools セットアップディスクから

lawin98.exe　(PC-9821シリーズの場合)

lawinat.exe　(DOS/Vマシンの場合)

を起動してください。

インストールが終了するとWindows3.1のプログラムマネージャにNetWare Toolsのグループが作られます。

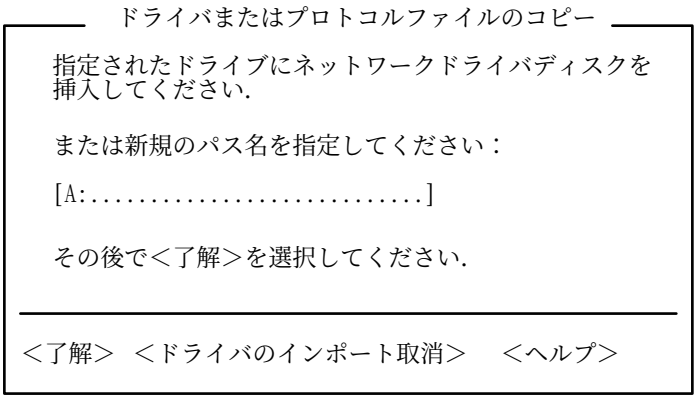
参照

NetWare User Toolsの使用方法に関してはNetWareのマニュアル及びNetWare User Toolsのヘルプを参照するか、ネットワークシステム管理者にご相談ください。

## 4.1.2 Microsoft LAN Manager V2.1xへのセットアップ

**LAN Managerのsetup.exeを起動してください。**

**「表示/変更」－「ネットワークドライバの登録」－「新規設定」－「その他のドライバ」を順に選択してください。**




**「ドライバまたはプロトコルファイルのコピー」の表示画面でLA2/T-PCIのサポートソフトウェアディスクを挿入したドライブ名のみを入力し、＜了解＞を選択してください。**

**例) PC-9821シリーズで [フロッピィディスクドライブがC ドライブ]の場合**

**C:・　(下線部入力)**

**例) DOS/Vマシンで [フロッピィディスクドライブがA ドライブ]の場合**

**A:・　(下線部入力)**

**次に「I-O DATA LA2/T-PCI ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ for xxxx」が表示されている事を確認してください。**

**「ネットワークプロトコル」で任意のプロトコルを選択して「ネットワークドライバ設定」で「了解」－「保存」でインストールは終了です。**

**注 意**

**1)DOS/Vマシンのマルチコンフィグ機能には対応していません。**
**2)CD-ROMドライブを使用している場合は、autoexec.batの「@REM ======= LANMAN 2.1･･･････････」で囲まれた領域を「mscdex.exe」の登録箇所より先に移動してください。**

## 4.1.3 Personal NetWare J1.0へのセットアップ

Install.exeでインストールする際に、「1次ネットワークインタフェースカード」－「OEM製NetWareインタフェースカードの設定」を選択後、LA2/T-PCIのサポートソフトウェアディスクを入れたドライブとディレクトリを指定します。

例) PC-9821シリーズで［フロッピィディスクドライブがC ドライブ］の場合
C:\netware\dosodi・　(下線部入力)
例) DOS/Vマシンで［フロッピィディスクドライブがA ドライブ］の場合
A:\netware\dosodi・　(下線部入力)

後は画面の指示に従ってインストールを継続してください。
詳細はPersonal NetWare J1.0のマニュアルを参照してください。

注 意

DOS/Vマシンのマルチコンフィグ機能には対応していません。

## 4.1.4 LANtastic 6.0へのセットアップ

LANtasticのInstall.exeでインストールする際に「追加機能の選択」－「インストール処理の継続」選択後、「NDISサポート　ネットワークアダプタ」を選択します。LA2/T-PCIのサポートソフトウェアディスクを入れたドライブとディレクトリを指定します。

例) PC-9821シリーズで［フロッピィディスクドライブがC ドライブ］の場合
C:\lantast・　(下線部入力)
例) DOS/Vマシンで［フロッピィディスクドライブがA ドライブ］の場合
A:\lantast・　(下線部入力)

後は画面の指示に従ってインストールを継続してください。
詳細はLANtasticのマニュアルを参照してください。

注 意

DOS/Vマシンのマルチコンフィグ機能には対応していません。

# 4.2 日本語WindowsNT3.5xへのセットアップ

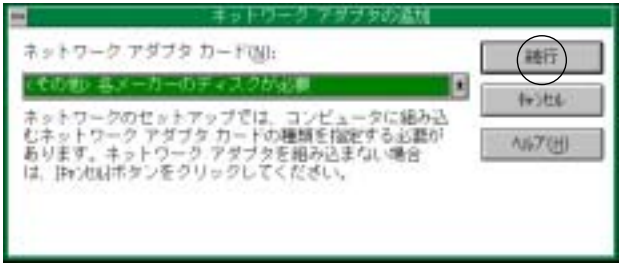
注 意

MS-DOSの起動ディスクを準備し、MS-DOSを起動してください。【2.4 動作確認】(P12)を参照して正常に動作することを確認の上、WindowsNT3.5xを起動します。

**1** WindowsNT3.5xを起動します。
まず、LA2/T-PCIが使用できるリソース（I/O ﾎﾟｰﾄ、割り込み,ﾒﾓﾘ領域）を確認してください。確認方法は、『プログラムマネージャ』－『管理ツール』の「WindowsNT 診断ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ」を起動して、空いている（使用していない）リソースで確認できます。

**2** 『メイン』→『コントロールパネル』の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックし、『ネットワークの設定』画面の[ｱﾀﾞﾌﾟﾀ ｶｰﾄﾞの追加]ボタンをクリックしてください。

**3** **『ネットワーク アダプタの追加』画面の「ネットワーク アダプタ カード」の項目で「<その他>各メーカーのディスクが必要」を選択し、[続行]ボタンをクリックしてください。**




**4** **『フロッピーディスクの挿入』ウィンドウで「LA-PCIシリーズサポートソフト」アディスクのパス指定を行います。**

**例) PC-9821シリーズで [フロッピィディスクドライブがC ドライブ]の場合**

**C:\nt35・　(下線部入力)**

**例) DOS/Vマシンで [フロッピィディスクドライブがA ドライブ]の場合**

**A:\nt35・　(下線部入力)**

WindowsNT3.5 の場合は、nt35
WindowsNT3.51の場合は、nt351
のディレクトリを指定してください。

**注 意**

**WindowsNT3.5 の場合は、nt35　を指定してください。**
**WindowsNT3.51の場合は、nt351 を指定してください。**

**5** 『OEM オプションの選択』画面で「I-O DATA LA2/T-PCI ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ ｾｯﾄｱｯﾌﾟ for xxxx」と表示されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。

**6** 『I-O DATA LA2/T-PCI ﾌｧｰｽﾄ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ ｾｯﾄｱｯﾌﾟ for xxxx』画面で、ボードの設定にあわせてリソースを設定し、[OK]ボタンをクリックしてください。

**7** 「コントロールパネル」ー「ﾈｯﾄﾜｰｸ」画面でWindowsNT3.5xのマニュアルに従って各種のﾈｯﾄﾜｰｸ構成を設定してください。

参考

WindowsNT3.5xの「ﾈｯﾄﾜｰｸ」、「ｻｰﾊﾞ」、「FTPｻｰﾊﾞ」、「ﾌｧｲﾙﾏﾈｰｼﾞｬ」、「ﾕｰｻﾞﾏﾈｰｼﾞｬ」の設定により、WindowsNT3.5x同士の「ピア･ツー･ピア」接続、「NetWareクライアント」接続、「WindowsNT3.5xクライアント」接続などが可能になります。詳細はWindowsNT3.5xのマニュアルをご覧頂くか、ネットワークシステム管理者にご相談ください。

# 4.3 日本語WindowsNT4.0へのセットアップ

注意

MS-DOSの起動ディスクを準備し、MS-DOSを起動してください。[2.4 動作確認] (P12)を参照して正常に動作することを確認してください。

LA2/T-PCIを取り付ける前にWindowsNT4.0のネットワークの設定を既に終了している場合はアダプタの追加のみの手順となります。アダプタの追加のみの場合は、網掛けの項目のみをご覧ください。

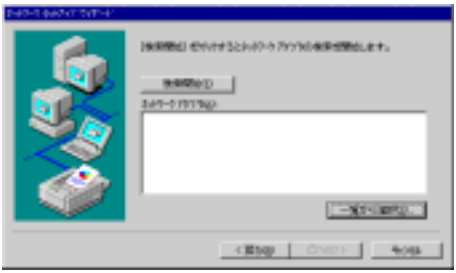
1 WindowsNT4.0を起動します。

2 まず、LA2/T-PCIが使用できるリソース (I/O ﾎﾟｰﾄ､割り込み､ﾒﾓﾘ領域) を確認してください。確認方法は、『プログラムマネージャ』ー『管理ツール』の「WindowsNT 診断ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ」を起動して、空いている (使用していない) リソースで確認できます。

3 『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』をクリックし、[ﾈｯﾄﾜｰｸ]アイコンをダブルクリックして開きます。別のネットワークカード等がインストールされている場合は、[アダプタ]タブをクリックして、[追加]ボタンをクリックしてください。(ネットワークがインストールされていない場合は、「Windows NT ネットワークがインストールされていません。インストールしますか ?」と表示されますので、[はい]ボタンをクリックしてください。)

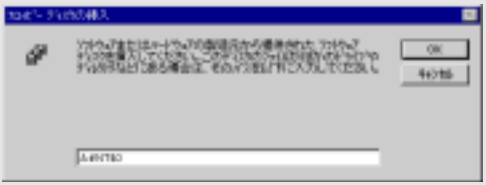
**4** **『ﾈｯﾄﾜｰｸｾｯﾄｱｯﾌﾟｳｨｻﾞｰﾄﾞ』ウィンドウで、「ﾈｯﾄﾜｰｸに接続」がチェックされている事を確認して、[次へ]ボタンをクリックしてください。**

**5** **検索の画面が表示されます。[一覧から選択]ボタンをクリックしてください。**

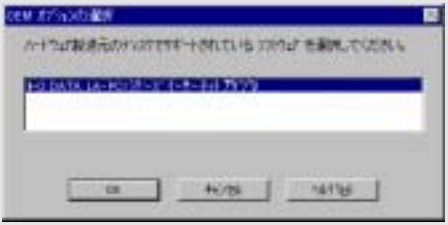


**6** **アダプター一覧が表示されます。右下の[ディスク使用]ボタンをクリックしてください。**

**7** フロッピーディスク挿入の画面が表示されます。フロッピードライブがA:の場合は「A:\NT40」と入力して、[OK]ボタンをクリックしてください。



**8** OEMオプションの選択』画面では、「I-O DATA LA-PCIｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」を選択し、[OK]ボタンをクリックしてください。



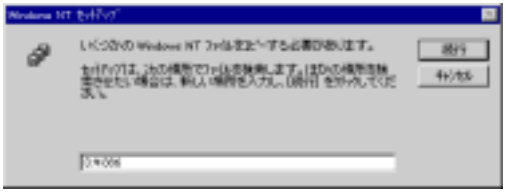
**9** 以下のように、「I-O DATA LA-PCIｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」が表示されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックしてください。

**10** ネットワークで使用するプロトコルを指定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。

**11** ネットワークサービスを指定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。

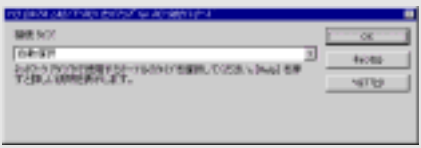
**12** 「選択されたネットワークコンポーネントとシステムに必要なネットワークコンポーネントをインストールします。.....」と表示されますので、[次へ]ボタン をクリックし、それぞれのコンポーネントを設定してください。設定の詳細については、WindowsNT4.0のマニュアルをご覧になるか、またはネットワーク管理者にお尋ねください。

**13** 「いくつかのWindows NTﾌｧｲﾙをｺﾋﾟｰする必要があります」と表示されます。DOS/Vマシンの場合は「D:\i386」、PC-9821シリーズの場合は「D:\PC98」と入力(CD-ROMドライブがDドライブの場合)して[OK]ボタンをクリックしてください。



(DOS/Vマシンの場合)

**14** リソース設定の画面が表示されます。
PCIボードの場合は接続するケーブルの種類を指定し、[OK]ボタンをクリックしてください。(自動選択に設定する場合は、ケーブルがコネクタに接続されていることが必要です。)
別のネットワークなどがインストールされている状態でLA-2T/PCIを追加した場合の作業はこれで完了です。他に必要なネットワークの設定を行ったあと、画面の指示にしたがって再起動してください。



(PC-9821シリーズの場合)

(DOS/Vマシンの場合)

**15** ネットワークのバインドを設定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。

**16** 「ﾈｯﾄﾜｰｸを起動する準備が整いました。」と表示されますので、[次へ]ボタンをクリックしてください。

**17** ドメインまたはワークグループを設定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。

**18** 「このｺﾝﾋﾟｭｰﾀにﾈｯﾄﾜｰｸがｲﾝｽﾄｰﾙされました。.....再起動しなければなりません。」と表示されます。[完了]ボタンを押して、フロッピィディスクをドライブから抜き、再起動してください。

以上でインストールは完了です。

# 付録1 困った時には

LA2/T-PCIが異常になる理由は様々です。(ネットワーク回線が接続されていないなど、ユーザーによって容易に改善できる場合もあります。)
この章では、個々の共通のトラブルを解決するヒントを提供します。

## ● 自己診断中のトラブル

MS-DOS上で動作する lasetup.exeの「LANアダプタの自己診断及び設定」でLA2/T-PCIの診断とネットワーク回線のチェックを行うことができます。
インストール時のトラブルの多くは、各種デバイスドライバとのパソコン資源の競合によって発生します。
インストール時の障害を追求するための一番良い方法は、できる限り簡素なCONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATを使用して起動することです。
MS-DOS6.x以降の場合は、DOSの起動時に[F8]キーを押しながら、パソコンを再起動してください。([Y]キー[N]キーで組み込むドライバを選択してください。)そうでなければ、起動可能(DOS/Vの場合は日本語環境が必要)なシステムディスクを作成し、パソコンを再起動してください。

1. 10BASE-T(非シールドツイストペア)接続でアダプタ異常という結果になる。
   Lk(リンク)LEDインジケーターは、OFFになる。
   電源を入れた直後から画面に何も表示されない。
2. アダプタルーティングの診断テストは、External Loopbackテストの異常という結果になる。

**原因** 10BASE-Tのツイストペア接続に異常がある。

**対処** RJ-45接続が外れていないか、ケーブルの種類(クロスケーブルとストレートケーブル)が間違っていないかを調べてください。確認後システムを再起動し、再び診断プログラムを動かしてテストしてください。

1. BNC接続で、アダプタ異常という結果になる。
2. アダプタルーティングの診断テストは、外部ループバックテストの異常という結果になる。

**原因** 10BASE2の同軸ケーブル接続に異常がある。

**対処** BNCへの接続が外れていないか、ネットワークセグメントの両方の終端が適切に終端処理（50オームのターミネータでネットワークセグメントの端末を閉じます。）されているかを調べてください。確認後システムを再起動し、再び診断プログラムを動かしてテストしてください。

アダプタ異常。「ＬＡＮアダプタの自己診断及び設定」の実行ができない。

**原因** ケーブルの接続が悪い。

**対処** RJ-45接続を使用している場合は、接続が緩んでいるまたはケーブルの種類（クロスケーブルとストレートケーブル）が間違っていないかネットワーク回線を調べてください。

**原因** LA2/T-PCIが拡張スロットに正しく取り付けられていない。

**対処** LA2/T-PCIがパソコンの拡張スロットに適切に装着されているか調べてください。

**原因** パソコンの拡張スロットに、異常がある。

**対処** トラブルが起きているLA2/T-PCIを別の拡張スロットに取り付けるか、他のパソコンに取り付け、動作テストを行ってください。
もし、これでトラブルが解決される場合は、トラブルが起きているパソコン本体の拡張スロットに異常があることになります。ネットワークシステム管理者またはパソコンの販売店にご相談ください。

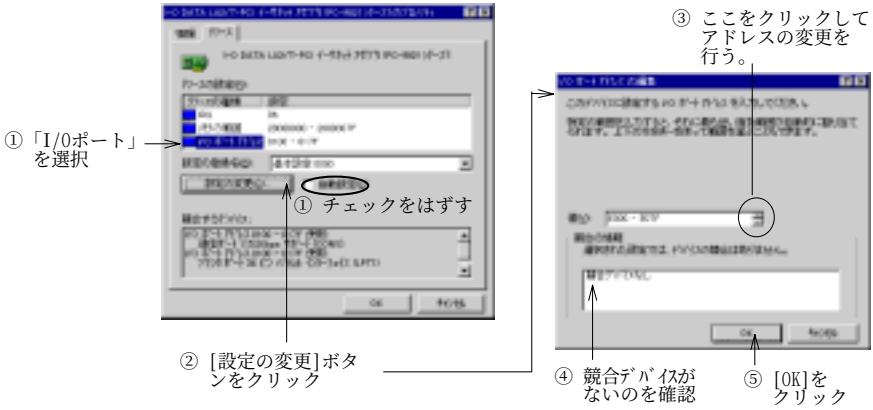
## ● Windows95上でのトラブル

**『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』の「ｼｽﾃﾑ」アイコンをダブルクリック後、『ｼｽﾃﾑのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の「ﾃﾞﾊﾞｲｽ　ﾏﾈｰｼﾞｬ」で、「I-O DATA LA2/T-PCI ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」(PC-9821シリーズの場合)または「PCI Ethernet DECchip 21040 Based Adapter」(DOS/Vマシンの場合)の頭に、黄色の！マークがついている。**

**原因**　リソースが競合している。

**対処**　以下の手順に従ってください。
（画面は、PC-9821シリーズを例にしています。）

① 「I-O DATA LA2/T-PCI ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」を選択し、「ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」ボタンをクリックします。「ﾘｿｰｽ」タブをクリックし、「ﾘｿｰｽの種類」の変更する設定（「I/Oﾎﾟｰﾄｱﾄﾞﾚｽ」等）をクリックします。
② [設定の変更]ボタンをクリックします。編集画面が表示されます。
③ 設定値の変更を行います。
④ 変更した「値」が、「競合ﾃﾞﾊﾞｲｽがない」のを確認してください。競合ﾃﾞﾊﾞｲｽがある場合には、他の設定値に変更し直してください。
⑤ 変更終了後、編集ウィンドウの[OK]ボタンをクリックします。



**Windows95がLA2/T-PCIを自動検出せず、ハードウェアウィザードが起動しない。**

**原因** LA2/T-PCIが正しく取り付けられていない。

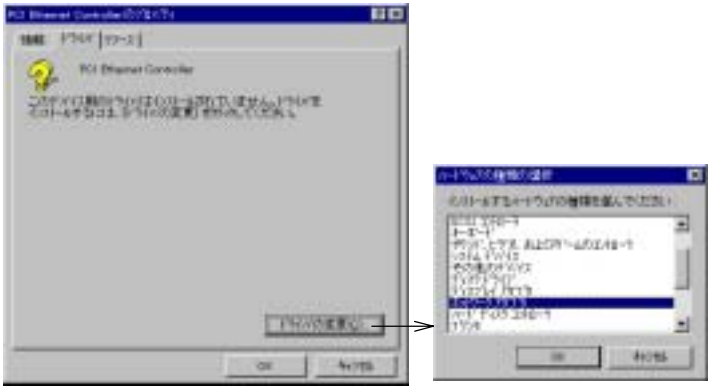
**対処** 【2.3 取り付け】(P9)を参照して、LA2/T-PCIを正しく取り付けてください。

**原因** ドライバが正常にインストールされていない。

**対処** まず「ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ」→「ｼｽﾃﾑ」にある「ﾃﾞﾊﾞｲｽ　ﾏﾈｰｼﾞｬ」を調べてください。
「？」マークのところに「PCI Ethernet Controller」がある場合とない場合で対処方法が異なりますので、ある場合は①を、ない場合は②を参照してください。

### ①「？」マークのところに「PCI Ethernet Controller」がある場合

**1** 「PCI Ethernet Controllerのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」が選択された状態で、[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]ボタンをクリックしてください。「PCI Ethernet Controllerのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」で[ﾄﾞﾗｲﾊﾞの変更]ボタンをクリックしてください。次に「ﾈｯﾄﾜｰｸ　ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」を選択して[OK]をクリックしてください



**2** **以下の画面が表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。**

**後は、[3.1.1 インストール] の手順4以降(P17)を参照して、インストールの続きを行ってください。**

### ②「？」マークのところに「PCI Ethernet Controller」がない場合

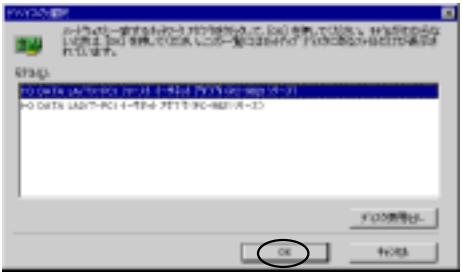
**1** **「ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ」の「ﾊｰﾄﾞｳｪｱ」を起動し、「ﾊｰﾄﾞｳｪｱｳｨｻﾞｰﾄﾞ」で「いいえ」を選択してください。**

**2** **「ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾀﾞﾌﾟﾀ」を選択し、[次へ]ボタンをクリックしてください。**

**3** 『ﾃﾞﾊﾞｲｽの選択』画面で［ﾃﾞｨｽｸ使用］をクリックしてください。

**4** 「LA-PCIシリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに入れ、「配布ﾌｧｲﾙのｺﾋﾟｰ元」に C:\WIN95 と入力し[OK]をクリックしてください。（フロッピィディスクドライブが C: ドライブの場合）

**5** 『ﾃﾞﾊﾞｲｽの選択』で「I-O DATA LA2/T-PCI ﾌｧｰｽﾄ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ（PC-9821ｼﾘｰｽﾞ）」と表示されていることを確認して［OK］ボタンをクリックしてください。



後は、［3.1.1 インストール］の手順4以降(P17)を参照して、インストールの続きを行ってください。

# 付録2 ネットワークの仕様及び接続方法

ここではネットワークの仕様として10BASE-T及び10BASE2について記述します。

## 付2.1 10BASE-T

ハブと非シールドツイストペアケーブルを用い、各ワークステーションを接続します。また、LANアダプタボードとハブ間（ハブとハブ間［デイジーチェーン接続］）の非シールドツイストペアケーブル長は最大100mです。ネットワークシステム全体で接続できるワークステーションの最大数は1024台までです。（IEEE802.3規格）

参考

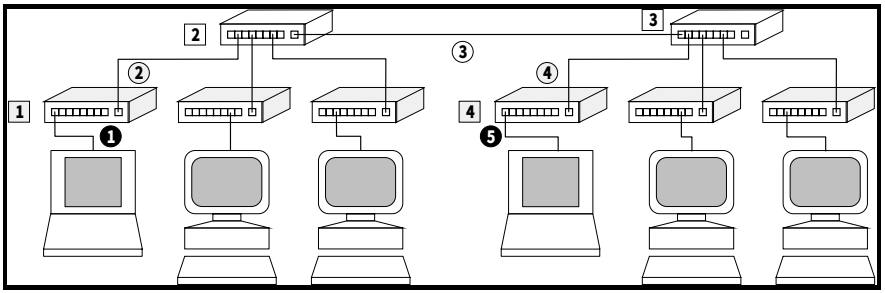
パソコン2台だけのネットワーク（ピア・ツー・ピア型など）を行う場合は、特殊なケーブル（非シールドツイストペアのクロスケーブル）を使用することにより、ハブ無しで直接接続することができます。
（この場合もケーブル長は、最大100mとなります。）

1セグメントの大きさは最大100mでネットワーク全体の大きさは最大500m（Ethernet 5セグメント4リピーター規則）となります。
ただし、ネットワーク全体の大きさはスイッチングハブと併用することにより制限はなくなります。（データがスイッチを通過するたびに新しいコリジョンドメインに入るためです。）
弊社では10BASE-Tのハブとして「LA-HB8」,「LA-HB5」を用意しております。

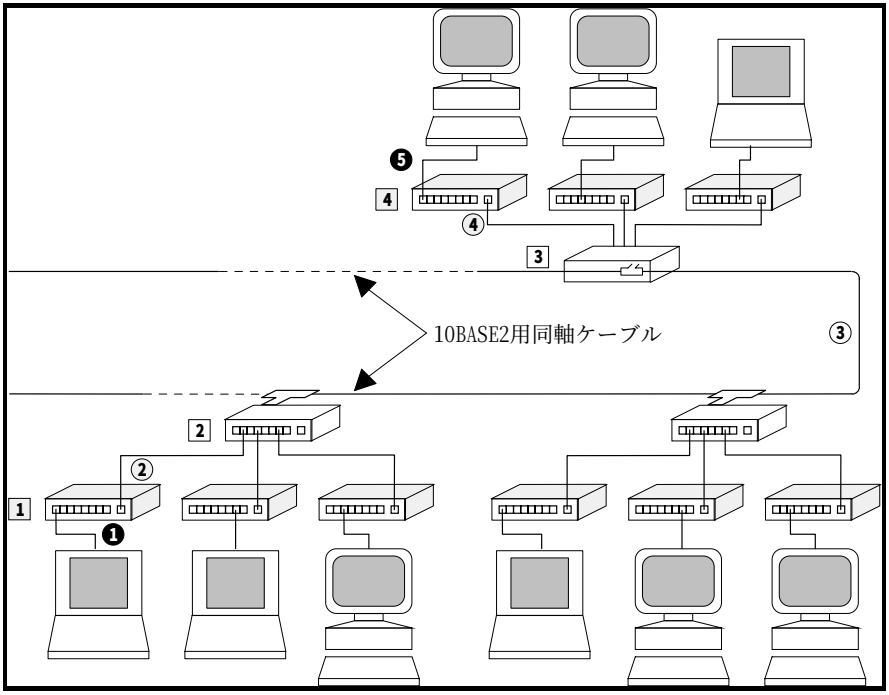
**デイジーチェーン接続の概念図**

**デイジーチェーンの接続方法については、ハブの取扱説明書をご覧ください。**

**10BASE-Tのみで接続する場合**




**10BASE-Tと10BASE2を組み合わせた場合**



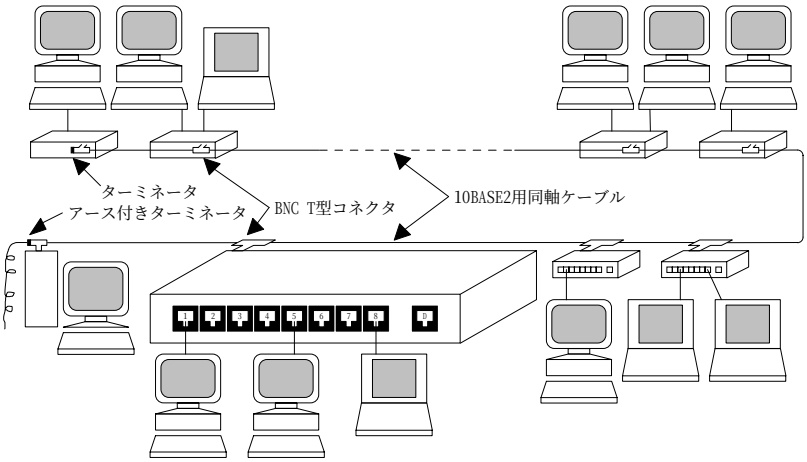

**注 意**

**各ワークステーション（端末のパソコン）の最大距離は、4階層のハブ（5階層のケーブルセグメント）となります。**

## 付2 2 10BASE2

**BNC T型コネクタと10BASE2用同軸ケーブルを用い、1セグメント（10BASE2のターミネータで処理された終端間）に最大30台（LANアダプタボードやハブなど）まで接続することができます。1セグメントの長さは、最大185m（10BASE2用同軸ケーブルの長さは、0.5mの整数倍。）です。また、10BASE2用リピータを用いることにより最大5セグメントまで拡張できます。ネットワークシステム全体で接続できるワークステーションの最大数は1024台までです。（IEEE802.3規格）**

**BNCポートの使用について**
**LA-HB8のBNCポートを使用して他のBNCポート付きハブやLANアダプタボードと接続することができます。**
**10BASE2用同軸ケーブルで各ハブやLANアダプタボードを接続してください。（同軸ケーブルの終端はターミネータで処理してください。）**

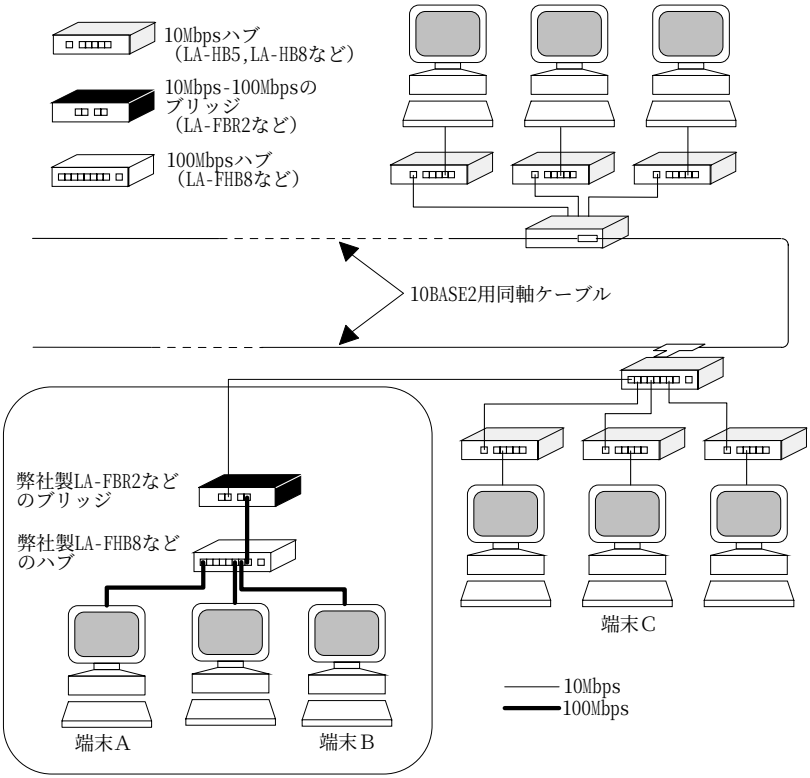



注意

**10BASE2で接続する場合は、事前にネットワークシステム管理者に相談の上、ネットワークシステムをシャットダウンしてから行ってください。**

**【100Mbpsネットワークとの接続】**

**10Mbps/100Mbpsブリッジを使えば、10Mbpsネットワークと100Mbpsネットワークを相互接続することができます。たとえば、CADシステムなど大量のデータ伝送を必要とする部門は100Mbpsネットワーク、他部門は10Mbpsネットワークを敷設し、相互をブリッジ経由で接続すると効率的かつ経済的な社内ネットワークを構築することができます。図1にその接続例を示します。**




**【図1】**

**図1では、端末AとBの間は100Mbpsでの高速伝送ができ、端末AとCの間は10Mbpsの伝送を利用できます。**
**100Mbpsの高速伝送を行うためのハブとして、弊社では「LA-FHB8」をご用意しております。また、10Mbpsと100Mbpsを相互接続するブリッジとして、弊社では「LA-FBR2」をご用意しております。**

# 付録3 用語解説

## 100BASE-TX (ヒャクベース ティーエックス)

100Mbpsイーサネット接続で使用するEthernetのIEEE規格の1つで、非シールドまたはシールドのツイストペアケーブルを使用する。

## 10BASE2 (テンベース ツー)

直径約5mmの同軸ケーブル (Thin Ethernetケーブル) を使用するEthernetのIEEE仕様。伝送速度は、10Mbps。

## 10BASE5 (テンベース ファイブ)

直径約12mmの同軸ケーブル (Thick Ethernetケーブル/Yellowケーブル) を使用するEthernetのIEEE仕様。伝送速度は、10Mbps。

## 10BASE-T (テンベース ティー)

非シールドのツイストペアケーブルを使用するEthernetのIEEE仕様。伝送速度は、10Mbps。

## AUI (エーユーアイ) [Attachment Unit Interface]

IEEE 802.3で規格されている15ピンのインターフェイスで、サーバや他のデバイスを10BASE5 Ethernetトランシーバ(MAU･･･Medium Attachment Unit)に接続します。

## BNC (ﾋﾞｰｴﾇｼｰ)

10BASE2用同軸ケーブルを接続するために使用されるコネクタ。半回転ひねってロックする口があります。

## CSMA/CD (ｼｰｴｽｴﾑｴｰ/ｼｰﾃﾞｨ)

(Carrier sense multiple access with collision detection)。
Ethernetで使用されるネットワーク形式。ネットワークのアクセス制御をノード毎に分担することが特徴。

## IEEE 802.3 規格 (ｱｲﾄﾘﾌﾟﾙｲｰ ﾊﾁﾏﾙﾆﾃﾝｻﾝ ｷｶｸ)

ローカルエリアネットワークの物理的、電気的特性の標準規格の1つ。
IEEE(Institute of Electrical and Electronics Engineers)によって規格化された。IEEE.802.3u規格は100Mbpsについて取り決めたもの。

## Mbps (ﾒｶﾞﾋﾞｰﾋﾟｰｴｽ)

Megabits per secondの略。

## NetWare (ﾈｯﾄｳｪｱ)

ノベル社のネットワークオペレーティングシステム(異なったプラットホーム間の通信･データ共有を実現するシステム)。
NetWare Core Protocol(NCP)、Internetwork Packet Exchange(IPX)、そしてSequential Packet Exchange(SPX)のプロトコルを使用します。

## NIC (ﾆｯｸ)
## [Network Interface Card]

LANボードの事を指す。LANボードはネットワークアダプタとも呼ぶ。

## OSI（ｵｰｴｽｱｲ）[Open Systems Interconnection]

ISO(International Organization for Standardization)によって発表され、CCITT(Comite Consultatif International Telegraphique et Telephoniqueは現在ITU-T[International Telecommunication Unon-Telecommunication standardization sector]となった。)に承認された通信規格の標準化を図るための規格。
OSIモデルは、通信に必要な処理機能を「物理」、「データリンク」、「ネットワーク」、「トランスポート」、「セッション」、「プレゼンテーション」、「アプリケーション」の７つの階層（レイヤー）に体系的にまとめられている。

## RJ-45 Connector（ｱｰﾙｼﾞｪｲ ﾖﾝｺﾞ ｺﾈｸﾀ）

ツイストペアケーブルを接続するコネクタで最も普及している形式。

## TCP/IP（ﾃｨｰｼｰﾋﾟｰ/ｱｲﾋﾟｰ）[Transmission Control Protocol/Internet Protocol]

Advanced Research Projects Agency(ARPA)によって開発されたプロトコル一式。主にネットワーク層プロトコル(IP)と、トランスポートプロトコル(TCP)を含みます。

## イーサネット（Ethernet）

米国ゼロックス社、ディジタル･イクイップメント社、インテル社によって開発されたネットワーク通信方式。当初この方式は、基礎帯域伝達、CSMA/CDアクセス、論理バストポロジー、同軸ケーブルを使用して構成されていた。
後にIEEE 802.3として規格化され、光ファイバー、広周波数帯域、ツイストペアで運用するリピータなどを使って拡張する追加機能が定義された。

## コリジョン（Collision）

2つのパケットが同時にネットワーク上に送出され、相互干渉を起こしてデータが壊れる現象。干渉によるパケットの破壊はボードによって検出され再送信されます。

## シールドツイストペア [STP･･･Shielded Twisted-Pair]

電気干渉を減少させるため、2本の絶縁された導線をひねりあわせ、さらに金属の薄片のレイアで保護されたケーブル。

## スイッチング方式

受信データを別のポートへ伝送するときの方法。

1. カットスルー方式
   パケットのヘッダから送信先アドレスを読み取り、送信先ポートに用意されている経路選択テーブルを検索し、パケット全部を受信する前に、そのパケットを適切なポートへ転送する方式。パケット伝送の遅延時間を20μ秒以下に減少させることができ、処理速度が向上する。
2. ストアアンドフォワード方式
   従来のブリッジやルータで採用されていた方式で、いったんフレーム全体を受信した後、着信先ノードを探すためにテーブルを検索し、そのパケットを対応するポートに転送する。このため各パケットはブリッジで約800μ秒、ルータで約1800μ秒遅延するが、多くのデータエラーがネットワーク全体で発生する場合や、非常に低速のデバイスに接続するときは有効。
3. フラグメントフリーカットスルー方式
   カットスルー方式に確実性をプラスしたもので、コリジョンウィンドウが通過するまで（たとえば、最初の全64バイトを受信するまで）待ってから、パケットを処理する方式。この方式は小型のフレーム1つだけで渡すのを防止して、効率的にデータの流れを処理できる利点がある。

カットスルー方式は多数のアプリケーションで使用できる最も速い方式として推奨されている。

## ステーションポート

他のLAN端末と接続するハブのRJ-45ポート。

## デイジーチェーンポート

複数のハブを相互に接続するために使用するRJ-45ポート。このポートに接続されたケーブルを別のハブのステーションポートに接続する。このように複数の機器を芋ずる式に接続することをデイジーチェーン接続という。デイジーチェーン接続された機器は直列の接続になるため、カスケード（直列）接続とも呼ばれる。

## トラフィック（Traffic）

ネットワークの情報量を指します。

## バストポロジー

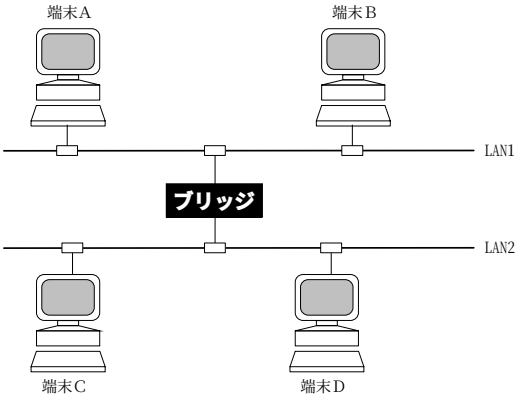
ネットワークの全てのステーションで、ケーブルを経由して同じメッセージを同時受信できるように調整すること。

## 非シールドツイストペア [UTP･･･Unshielded Twisted-Pair]

電気干渉を減少させるため、2本の絶縁された導線をひねりあわせたケーブル。

## ブリッジ

2つのLANセグメントを接続する中継装置。スイッチングや経路選択テーブル、フォワーディング、フィルタリングなどの方式を使って、ネットワーク全体のパフォーマンスが最適化するように工夫されている。（ルータと違って、ブリッジではブロードキャストの場合はフィルタリング機能を使えず、すべてのLANセグメントにデータが転送される。）
LAN内で使用するローカルブリッジと、WANで使用する通信回線用のリモートブリッジがある。




【図A】

図Aの例で、端末Aから端末Bにデータを送信した場合、フィルタリング機能により、データ送信の必要がないLAN2には送信されないので、LAN2内のトラフィック負荷が減少する。

## フレーム (Frame)

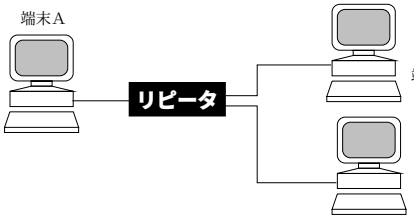
データに制御情報を加えたビットのグループ。
一般にデータリンク層(OSIモデルの第２層)で定義されるデータの伝送形式。

## ブロードキャスト (Broadcast)

ネットワーク上の全ての端末にメッセージを送るプロセス。

## リピータ

受信したデータを出力ポートの数だけ増幅して送信する装置。マルチポートリピータ（＝ハブ）とは、受信したデータを複数の出力ポートすべてに送信する装置のこと。

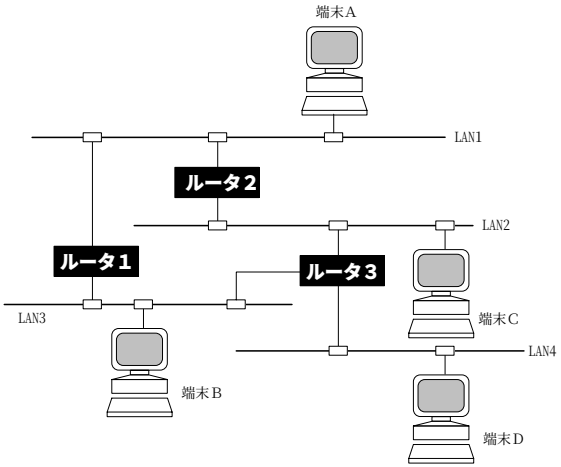



【図B】

図Bの例で、端末Aから端末Cにデータを送信した場合、端末Cだけでなく、端末Bにも同じデータが送信される。

## ルータ

**複数のLANの相互接続を行う中継装置。経路選択テーブルを持ち、これに従って最も最短となる転送ルートを決定する。**




**【図C】**

**図Cの例で、端末Aから端末Cへデータ送信した場合、ルートは、**

**1．　端末A→LAN1→ルータ2→LAN2→端末C**

**2．　端末A→LAN1→ルータ1→LAN3→ルータ3→LAN2→端末C**

**の2通りあるが、各端末およびルータが持つ経路選択テーブルを参照し、最も短いルート1を自動的に判断する。（ブロードキャストの場合も不要なLANにはデータを伝送しない。）**

**ルータは高機能であるが、その分スイッチング時のデータ遅延も長く、中小規模ネットワークにはブリッジの方が向いている。**

## ループバック（Loopback）

**診断プログラムのテスト項目のひとつ。伝送媒体を通じてテスト機自身に信号を送り、信号受信を確認する方式。**

# 付録4 仕様

ここではパソコンの環境状況、及びLA2/T-PCIの仕様について記述します。

## 付4.1 パソコン環境

LA2/T-PCIはPlug and Playに対応していますので「割り込み(IRQ)」「I/Oポートアドレス」は自動的に設定されます。パソコンにセットする際に特別な設定は必要ありません。ただし、Plug and Playに対応していないボードと共に使用する場合は、そのボードが使用する「割り込み(IRQ)」「I/Oポートアドレス」「DMAチャネル」などをBIOSセットアップ(DOS/Vマシン)や、PCIセットアップディスク(PC-9821シリーズ)により、あらかじめ設定しておく必要があります。設定の詳細はお持ちのパソコンやマザーボード、各拡張ボードのマニュアルをご覧ください。

**・DOS/Vマシン本体の割り込み、DMA、I/Oポートアドレス使用状況 (一例)**

| パソコン本体 | | IRQ | DMA | I/O Port Address(備考) |
|---|---|---|---|---|
| タイマー | | 0 | | |
| キーボード・コントローラ | | 1 | | 0060h～0067h |
| IRQ8～15のカスケード接続用 | | 2 | | (IRQ9と併用不可能) |
| RS-232C | (COM4) | 3 | | 2E8h～2EFh |
| | (COM2) | | | 2F8h～2FFh |
| | (COM3) | 4 | | 3E8h～3EFh |
| | COM1 | | | 3F8h～3FFh |
| (LPT2) | | 5 | | 278h～27Fh |
| FDDコントローラ | | 6 | 2 | 3F0h～3F7h |
| LPT1 | | 7 | | 378h～37Fh |
| リアルタイムクロック | | 8 | | |
| 未使用(IRQ2にリダイレクト接続) | | 9 | | (IRQ2と併用不可能) |
| 未使用 | | 10 | | |
| 未使用 | | 11 | | |
| (PS/2マウスポート) | | 12 | | 0060h～0067h |
| 数値演算コプロセッサ(80287) | | 13 | | |
| プライマリIDEドライブコントローラ | drive0 | 14 | | 1F0h～1F7h |
| | drive1 | | | 3F6h～3F7h(FDと共有) |
| (セカンダリIDEドライブコントローラ) | drive2 | 15 | | 170h～177h |
| | drive3 | | | 376h～377h |

注 意

**パソコン本体の仕様により、異なる場合があります。マニュアルなどを参照して確認してください。**

**・DOS/Vマシン用各種ボードの割り込みレベルとDMA使用状況（一例）**

| パソコン本体 | | IRQ | DMA | I/Oポートアドレス |
|---|---|---|---|---|
| GAシリーズ(VGAモード使用時) | | | | 3C0h～3DFh,46E8h |
| SC-DV/ISA | | 11 | | 140h～14Fh |
| Sound Blaster16 | Game Port | 5 | 1,5 | 200h～207h |
| | SB16 | | | 220h～233h |
| | MIDI | | | 330h～331h |
| | FM音源 | | | 388h～38Bh |
| Sound Blaster Pro | Game Port | 5 | 1 | 200h～207h |
| | SB Pro | | | 220h～233h |
| | MIDI | | | 330h～331h |
| | FM音源 | | | 388h～389h(～39Fh) |
| AHA-1520/1522 | | 11 | | 340h～35Fh |
| AHA-1540/1542 | | 11 | 5 | 330h～333h |

**・PC-9821シリーズの割り込みレベルとDMA使用状況（一例）**

| パソコン本体 | | 割り込みレベル(INT) | | | | | | | | | DMA チャネル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | 41 | 42 | 5 | 6 | 無し | #0 | #1 | #2 | #3 |
| マウス | | | | | | | | | ● | | | | | |
| IDE 内蔵ハードディスク | | | | | ● | | | | | | | | | |
| 内蔵サウンド機能 | | | | | | | | ◎ | | | | | | |
| 内蔵フロッピィディスク I/F | 640KB | | | | | △ | | | | | | | | △ |
| | 1MB/1.44MB | | | | | | ● | | | | | | ● | |
| TVチューナボード | | | | ● | | | | | | | | | | |
| FAXモデム | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 2nd CCU | | | ◎ | | | | | | | | | | | |
| 赤外線通信機能 | | | ◎ | | | | | | | | | | | |

**●出荷時設定（パソコン本体のマニュアルなどを参照してください。◎の部分は解放可能な場合があります。）**

**△解放可能（PC-9821シリーズのシステムセットアップメニューまたはディップスイッチで、フロッピィディスクモードを「1M」に固定｛SW3-1 ON,SW3-2 OFF｝すると解放されます。この場合でも 2DD(640KB/720KB) のディスクはアクセスできます。）**

### ・各種PC-9821シリーズ用ボードの割り込みレベルとDMA使用状況（一例）

| 拡張ボード | 割り込みレベル(INT) | | | | | | | | | DMA チャネル | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 0 | 1 | 2 | 3 | 41 | 42 | 5 | 6 | 無し | #0 | #1 | #2 | #3 |
| SC-98III/98IIISB SCSI-2 I/F | ● | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ | | | ● |
| MPG-98　　MPEG再生ボード | ○ | ● | ○ | | ○ | | | | | | | | |
| GV-MTV/98　多機能ビデオボード | ○ | ○ | ● | | ○ | | | | | | | | |
| SB16/98　　サウンドブラスター | ○ | ● | | | ○ | | ○ | | | ○ | | | ● |
| | △ | | | | △ | | ▲ | △ | | | | | |
| RSA-98シリーズ 高速RS-232C拡張ボード | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| PC-9801-07/27 HD I/F | | | | ● | | | | | | ● | | | |
| PC-9801-55/55U/55L/92 SCSI I/F | ○ | ○ | ○ | ● | | | ○ | ○ | | ● | | ○ | ○ |
| PC-9801-26/K　サウンドボード | ○ | | | | ○ | ○ | ● | ○ | | | | | |
| PC-9801-73/86 サウンドボード | ○ | | | | ○ | | ● | ○ | | | | | |

●出荷時設定（▲YM2203用の出荷時設定[YM2203使用時のみ有効]）

○変更可能　（△YM2203用の変更可能設定[YM2203使用時のみ有効]）

### ・各種PC-9821シリーズ用ボードのI/Oポートアドレス使用状況（一例）

| 拡張ボード | I/Oポートアドレス | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | xxD0h | xxD2h | xxD4h | xxD6h | xxD8h | |
| SC-98III/98IIISB | | | | | | ※1 |
| MPG-98 | **x5D0h** | | | | | **x=7** x=0h～Fh(設定可能) |
| GV-MTV/98 | **0xD0h** | | 0xD4h | | 0xD8h | 0xDCh(設定可能)<br>**x=7** x=4h～7h(設定可能) |
| SB16/98 | | **nnD2h** | nnD4h | nnD6h | nnD8h | nnDAh～nnDEh(2h単位で設定可能)<br>nn=04h～07h,20h～2Fh,<br>30h～33h,80h,81h(占有) |
| GA-1024A/1280A | nnD0h | | nnD4h | | **nnD8h** | nnDCh～nnECh(4h単位で設定可能)<br>nn=00h～1Fh(占有) |
| GA-98NBｼﾘｰｽﾞ | | | | | | **nnE0h** ※2,46E8h(占有) |
| RSA-98ｼﾘｰｽﾞ | **xxD0h～xxD7h,xxE0h～xxEFh** | | | | | xxDAh(RSA-98Ⅱ/Sのみ使用)<br>**xx=50** xx=00h～FFh(設定可能) |
| INS-B64D | **xxD0h** | | xxD4h | | xxD8h | xx00h～xxFCh(4h単位で設定可能)<br>**xx=00** xx=00h～FFh(設定可能) |

■ 出荷時設定

※1 ： PnPモード時は、可変。
非PnPモード時は、CC0h,CC2h,CC4hに設定。

※2 ： nnE0h～nnE6h,nnEAh～nnEEh(2h単位で設定可能)nn=40h～5Fh占有
GA-98NBⅠ/Cのみ3nD2h,3nD4h,3nD6h,3nD8hのいずれか1バイト分(nは0h～2hを占有)を使用

注 意

1)使用可能な割り込みレベルやDMAチャネルの数は限られてます。このため、拡張ボードを多く使用しようとすると、重複がさけられない場合があります。
この場合は、重複のさけられない拡張ボードと併用できません。それらのボードを必要に応じて使い分けてください。
また、I/Oポートアドレスの使用状況は、各拡張ボードのマニュアルを参照して確認してください。
2)PC-9821シリーズで汎用拡張スロット用のプラグ＆プレイ対応ボードを使用すると、ボードを取り外した後もリソース情報が記憶されているため、割り込みやI/Oポートアドレスを正しく設定できないことがあります。このような場合はPCIセットアップディスクを使用し、取り外したボードのリソース情報を削除してから再度パソコンを起動してください。（方法はパソコン本体の取扱説明書を参照してください。）

併用する拡張ボードの割り込みレベルがIRQで表記されている場合は、下表でINT表記との関係を確認してください。

| INT 表記 | INT 0 | INT 1 | INT 2 | INT 3 | INT41 | INT42 | INT 5 | INT 6 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| IRQ 表記 | IRQ 3 | IRQ 5 | IRQ 6 | IRQ 9 | IRQ10 | IRQ11 | IRQ12 | IRQ13 |

# 付4.2 ハードウェア仕様

| | |
|---|---|
| LANアダプタボード | LA2/T-PCI |
| LANコネクタ | RJ-45,BNC |
| メディアタイプ | 10BASE-T(RJ-45),10BASE2(BNC) |
| 伝送方法 | ベースバンド方式 |
| アクセス方法 | CSMA/CD |
| LEDインジケータ | Link(LK)<br>ツイストペアLink(TP)<br>トラフィック(BUSY) |
| 転送レート | 10Mbps |
| IRQ (割り込み) | INT A, BIOS IRQセットアップによる自動設定 |
| I/Oポートアドレス | 自動検出設定 |
| 使用温度範囲 | 0°C～55°C (パソコンの動作する温度範囲であること) |
| 使用湿度範囲 | 10%～90%(結露しないこと。パソコンの動作する湿度範囲であること) |
| 消費電流(MAX) | 10BASE-T: +5V/520 mA<br>10BASE2: +5V/530 mA |
| サイズ | 119.9×98.2 mm |

# PLANTコールセンターへのお問い合わせ

弊社PLANTコールセンターへのお問い合わせはユーザー登録された方に限ります。

## ■お知らせいただく事項

1. お客様の住所･氏名･郵便番号･連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名と、サポートソフトウェアディスクのシリアルNo.
   (フロッピィディスクに貼ったVerシールに印刷されています。)
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用のOS(NOS)とアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

## ■郵便

住所　〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1
株式会社アイ・オー・データ機器
PLANTコールセンター「LA2/T-PCI」係　宛

## ■電話

電話番号　東京　03-5256-2010

受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）

## ■オンライン (パソコン通信)

| | |
|---|---|
| ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ | http://www.iodata.co.jp/ |
| IOS-NET | ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ機器ﾌｫｰﾗﾑのサポートセンター |
| NIFTY-Serve | ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ(SIODATA)サポート会議室 |

IOS-NETのアクセスポイントや概要については「サポートソフトのバージョンアップ」をご覧ください。

LAN製品に関するお問い合わせはPLANTコールセンターのみで行っています。予めご了承ください。

# サポートソフトのバージョンアップ

**入手方法は以下の通りです。なお、当サービスはユーザー登録された方のみが対象です。**

## ■IOSーNET

アクセスポイント

**東京　03-5295-6570　　大阪　06-368-2291**
**金沢　076-234-9811　　VTX(*) 166-77100**

『アイ・オー・データ機器フォーラム』→『サポートソフトライブラリ』を選び、必要なソフトや差分ファイルをダウンロードしてください。

(*)VTXのお申し込みと、VTXに対応した通信ソフトが必要です。VTXに関するお問い合わせは最寄りのNTT(0120-443322)へどうぞ。

### IOS-NET概要

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 最大通信速度 | 33600bps | | | | |
| 通信手順 | N81XN<br>(ﾊﾟﾘﾃｨﾋﾞｯﾄなし,8bit DATA,ｽﾄｯﾌﾟﾋﾞｯﾄ1, X ON,ｼﾌﾄ制御なし) | | | | |
| 使用文字コード | シフトJIS | | 制限時間 | 30分 | |
| CONNECT ID | IOS | USER ID | GUEST | パスワード | なし |

## ■その他のパソコン通信

**ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ　　http://www.iodata.co.jp/ →「ｻﾎﾟｰﾄ・ﾗｲﾌﾞﾗﾘ」**
**NIFTY-Serve　ｱｲ・ｵｰ・ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ(SIODATA)のﾗｲﾌﾞﾗﾘ9(LIB 9)**

## ■バージョンアップ窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。(送料及び手数料はお客様負担)

**住所　〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1**
**株式会社アイ・オー・データ機器**
**「LA2/T-PCI」　バージョンアップ係　宛**
**電話番号　076-263-7070**
**受付時間　9:30～12:00 13:00～17:00 月～金曜日(祝祭日を除く)**

## ご注意

- パソコン通信によるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。
- 添付ソフトウェアの中には、当サービス対象外のソフトウェアもあります。
- このサービスへのご質問は、弊社PLANTコールセンターやバージョンアップ窓口ではお受けできません。

# 修理について

弊社製品の修理については、以下の事項をご確認のうえ、販売店もしくは弊社PLANTコールセンターへご依頼ください。

- 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

- 修理品にはご使用の環境や現在の状態（『PLANTコールセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。

- 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
  ◇保証書がない場合
  ◇保証書の所定事項が未記入の場合
  ◇電源ONで挿入、抜去、逆挿入など誤った操作方法による破損、故障の場合
  ◇落雷などの事故による破損の場合
  ◇本製品を改造した場合

- 保証期間後は有償で修理いたします。
  製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。

- 修理品送付先

  住所　〒920-8513 石川県金沢市桜田町15街区7　ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル
  株式会社アイ・オー・データ機器
  「LA2/T-PCI」　修理係　宛

※修理品を送付される場合は、発送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱･梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、**宅配便**または**書留郵便小包**でのご送付をお願いいたします。

LA2/T-PCI 取扱説明書
1998.Apr.27 E-03A
発 行　株式会社アイ･オー･データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1

© 1995-1998 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品および本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

ここにVerシールをお貼りください

Verシール